

	2例目	6例目	82例目	83例目	84例目
農場情報					
農場所在都道府県	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道
農場所在市町村	厚真町	伊達市	千歳市	千歳市	千歳市
発生日(疑似患者判定日)	R4年10月28日	R4年11月7日	R5年3月28日	R5年4月3日	R5年4月7日
用途	肉用鶏	肉用鶏	採卵鶏	採卵鶏	採卵鶏
飼養形態	平飼	平飼	ケージ飼	ケージ飼	ケージ飼
家きん舎数	18棟(セミウインドウレス)	16棟(セミウインドウレス)	21棟(セミウインドウレス、うち6棟は空舎)	8棟(ウインドウレス)	9棟(ウインドウレス、うち1棟は空舎)
家きん舎・ケージ構造(発生鶏舎)	モニター無、鶏舎天井に排気ファン有(金網や防鳥ネットはなし)、屋根裏有	モニター無、排気ファン有、屋根裏有	モニター有、屋根裏無 2階建て 直立4段ケージ8列(4山)、通路5本 6~7羽/ケージ	モニター有、屋根裏無 2階建て、グレーチングの床 各階直立4段ケージ8列(4山)、通路5本 9羽/ケージ	モニター有、屋根裏無 2階建て、グレーチングの床 各階直立3段ケージ8列(4山)、通路5本 6羽/ケージ
発生鶏舎以外での殺処分前検査陽性	×	×	○	○	-
飼養羽数	約17万羽	約15万羽	約55.8万羽	約35万羽	約31万羽
うち発生鶏舎(通報時日齢)	約9,600羽(40日齢)	約9,400羽(40日齢)	約3~3.5万羽(518日齢)	約7.1万羽(170~563日齢)	約3.9万羽(419日齢)
通報時の死亡状況	鶏舎後方エリアに散在	鶏舎内に散在	死亡数の増加	まとまって死亡	かたまって死亡
発生日前日までの死亡羽数の推移(発生鶏舎)	(~10)⇒50	(5~6)⇒23⇒62⇒66	2⇒9⇒3⇒8⇒2⇒5	(8)⇒50	3⇒1⇒6⇒8⇒10
当該事例検出の契機(通報/検査)	通報	通報	通報	通報	通報
当該事例から3km以内の発生事例(発生日、距離)(当該事例発生日までの事例)	無	無	無	82例目	82例目、83例目
周辺農場検査(発生状況確認検査・清浄性確認検査)、疫学関連家きん飼養農場解除検査、例外協議検査等の採材日	-	-	-	R5年3月28日	R5年3月28日、R5年4月3日
当該事例病鑑前21日以内の簡易実施日(全鶏舎(全)か病鑑鶏舎のみ(単)かの別)	-	-	-	-	-
当該事例通報時の簡易検査結果	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏10/11、生鶏0/2	死鶏(陽性11/11)、生鶏(陽性2/2)	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏(陽性11/11)、生鶏(陽性0/2)
当該事例通報時のPCR検査結果	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏10/11、生鶏0/2	死鶏(陽性11/11)、生鶏(陽性2/2)	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏(陽性11/11)、生鶏(陽性2/2)
強制排気(発生家きん舎)(開放鶏舎の場合、壁に設置された換気扇からの排気を含む)	有(壁面上部に吸気口(2cmの金網有)、鶏舎天井に排気ファン)	有(鶏舎奥の壁に排気ファン)	有	有	有
至近のため池等の水場からの距離	約900m	浸透池が農場に隣接	約240m	約300m	約700m
周辺状況	・平野部に所在し、周囲は林・周囲にため池、農場内に沈殿池あり ・農場から0.9kmのため池にカモ類、1.5kmの池にカモ類・ハクチョウ類	・海岸沿い高台に位置し、周囲は林や牧草地 ・農場隣接の浸透池にコガモ	・平野部に位置し、付近は採草地や林、酪農場に囲まれている ・農場から240mの距離に川があり、マガモなどカモ類が複数確認	・平野部に位置し、付近は採草地や林、酪農場に囲まれている ・農場から300mの距離に川があり、マガモなどカモ類が複数確認	平野部に位置し、田畑、採草地、林に囲まれている
疫学情報					
生体の直近の導入日・頻度等	自社孵卵場から導入・飼養鶏群以外の導入無し	自社孵卵場から導入・飼養鶏群以外の導入無し	自社関連農場から120日齢で導入直近の導入はR5年3月23日	自社育成部門から120日齢で導入直近21日間以内に導入なし	自社育成部門等から120日齢で導入直近の導入はR5年3月23日
生体の直近の出荷日・頻度等(捕鳥・輸送)	なし	直近はR4年10月31日に中抜き出荷。捕鳥作業は外部業者(当該農場専属)に外注	730日齢 直近の出荷はR5年3月20日	出荷先:系列産卵処理場 720日齢 直近の出荷はR5年3月6日	730日齢 直近の出荷はR5年3月12日
種卵の直近の導入日・頻度等	-	-	-	-	-
食用卵・種卵の直近の出荷日・頻度等	-	-	農場内に併設されたGPセンターに出荷	農場内に併設されたGPセンターに出荷	系列農場に併設されたGPセンターに出荷
集卵バーコンベア出口のシャッターの有無、ある場合に手動又は自動、隙間の有無、家きん舎外バーコンベア上のカバーの有無等	-	-	鶏舎から出る集卵ベルトのラインは完全に覆われ、ベルト出口はGPセンターの建屋内にある	鶏舎から出る集卵ベルトのラインは完全に覆われ、ベルト出口はGPセンターの建屋内にある	鶏舎から出る集卵ベルトのラインは完全に覆われ、ベルト出口は集卵施設の建屋内にある
飼料業者(輸送)の直近の立入り・頻度等	5種類の飼料を使用していたが、すべて同一の飼料会社から購入。ほぼ毎日搬入	搬入は3~4日に1回	直近の搬入はR5年3月27日	毎日来場	ほぼ毎日来場
敷料調達(輸送)頻度	入糞前に全量を購入。入糞中に追加や搬出はなし	入糞前に全量を購入。入糞中に追加や搬出はなし	-	-	-
鶏糞・堆肥の直近の搬出日・頻度	・農場からの鶏糞の搬出は発生前1か月間は行われていない ・オールアウト後に鶏糞を搬出し、農場外の自社処理場で堆肥化	オールアウト後に鶏糞を搬出し、農場外の処理場で堆肥化。鶏糞搬出は1か月以上前	除糞ベルトで回収後トラックに積み込み、施設内の縦型コンポスト舎、鶏糞処理場、鶏糞発酵処理施設に運搬し、発酵または乾燥処理していた。乾燥させた鶏糞は施設内のボイラーで焼却	ほぼ毎日、鶏糞回収業者が引き取り	集糞ベルトで鶏舎床下に蓄積され、5日毎に鶏糞回収業者のトラックで搬出。発生鶏舎での作業はR5年4月4日
除糞ベルト出口、ピット等のシャッター、蓋等の有無、隙間の有無等	-	-	有(除糞ベルト出口には、稼働時以外、鉄板で塞がれている)	有(ベルト出口にシャッターあり。鶏舎内部の開口部にもコンパネで隙間なく仕切り)	有(除糞ベルト出口には、稼働時以外、蓋が設置)
死亡鶏出荷、処理の頻度等	衛生管理区域境界の蓋付き容器で一時保管後、自社運送車で回収し自社化製処理場で処理 最後の回収はR4年10月27日	ほぼ毎日自社運送車で回収し、自社化製処理施設で処理	死亡鶏はすべて農場内で発酵堆肥化処理	週3回	直近の出荷はR5年4月3日
作業従事者	3名	4名	35名	21名	9名
外国人従業員 ○:あり(鶏舎に入る) △:あり(鶏舎に入らない) ×:農場に入らない 海外渡航歴	なし	なし	×	○	×
管理獣医師	系列会社所属の獣医師。立ち入りは必要時のみ	契約獣医師。立ち入りは必要時のみ	かかりつけ獣医師あり R5年3月以降は来場なし	かかりつけ獣医師はいるが、今年に入って出入りはない。	かかりつけの管理獣医師はいるものの、R4年11月以降は出入りなし
動物用医薬品	消毒後、衛生管理区域へ搬入	消毒後、衛生管理区域へ搬入	不定期に購入 発生の1週間前に、給水にIBワクチンを溶かし込み投与。	R5年3月以降、購入なし	R5年3月以降、購入なし
その他衛生管理区域への立入り状況	なし	なし	工事業者 直近はR5年3月27日	なし	-
その他特記事項	-	-	-	・新鶏舎建設のため、R5年3月以降、建築業者がほぼ毎日農場に来ていたが、鶏舎に入ることなかったこと。 ・84例目(北海道5例目)の農場と除雪車を共有	83例目(北海道4例目)の農場と除雪車を共有

疫学情報まとめ 青森県<3事例>

	13例目	35例目	81例目
農場情報			
農場所在都道府県	青森県	青森県	青森県
農場所在市町村	横浜町	三沢市	蓬田村
発生日(疑似患者判定日)	R4年11月20日	R4年12月15日	R5年3月24日
用途	肉用鶏	採卵鶏	採卵鶏
飼養形態	平飼	ケージ飼	ケージ飼
家きん舎数	18棟(セミウインドウレス)	46棟(ウインドウレス30棟、開放16棟) ※発生鶏舎はウインドウレス	開放10棟 ウインドウレス2棟(計4鶏舎(内部で2区画に分割)、うち1鶏舎で発生)
家きん舎・ケージ構造(発生鶏舎)	モニター無、屋根に排気口有	モニター無、屋根裏無 2階建て、グレーチングの床 各階直立4段ケージ4列(2山)、通路3本	モニター有、屋根裏有 グレーチングの床 直立7段(1階4段、2階3段)ケージ4列(2山)
発生鶏舎以外での殺処分前検査陽性	-	○	-
飼養羽数	約12.2万羽	約137万羽 ※疑似患者公表時の数字	約33万羽
うち発生鶏舎(通報時日齢)	約9,100羽(43日齢)	約3.9万羽(620日齢)	約2.8万羽(462日齢)
通報時の死亡状況	鶏舎入口寄り約30羽死亡、残り約60羽も入口寄り、最終確認92羽	約180羽死亡(2階約140羽、1階約40羽)。鶏舎西側中央通路中心、下から4段目に多い。	ケージ内にいる6羽全てが死亡するなど、まとまった死亡を確認
発生日前日までの死亡羽数の推移(発生鶏舎)	(数羽~10羽)⇒4⇒10⇒17⇒4⇒92	1⇒6⇒8⇒2⇒3⇒11⇒1⇒5⇒14⇒1⇒1⇒5⇒2⇒11⇒0⇒5⇒14⇒9⇒2⇒15⇒2	(10羽程度)⇒50以上
当該事例検出の契機(通報/検査)	管理獣医師が簡易検査を実施するとともに通報	通報	通報
当該事例から3km以内の発生事例(発生日、距離)(当該事例発生日までの事例)	無	無	無
周辺農場検査(発生状況確認検査・清浄性確認検査)、疫学関連家きん飼養農場解除検査、例外協議検査等の採材日	-	-	-
当該事例病鑑前21日以内の簡易実施日(全鶏舎(全)か病鑑鶏舎のみ(単)かの別)	-	-	-
当該事例通報時の簡易検査結果	死鶏4/11、生鶏0/2	死鶏11/11、生鶏0/2	死鶏11/11、生鶏0/2
当該事例通報時のPCR検査結果	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏11/11、生鶏0/2	死鶏11/11、生鶏2/2
強制排気(発生家きん舎)(開放鶏舎の場合、壁に設置された換気扇からの排気を含む)	鶏舎壁面に吸気口、鶏舎天井に排気ファン	有	有(鶏舎壁面に吸気口、鶏舎天井に排気ファン)
至近のため池等の水場からの距離	付近に海、沿岸から800m、農場敷地内に沈殿池	約2km	約100m
周辺状況	・海岸から約800m内陸の砂丘帯に位置し、周囲は森林 ・隣接する養豚場敷地内の池でハンピロガモ2羽、農場から約1.1kmの池でカモ類9羽	・農場は平坦地に位置し、周囲は田畑であり開けている。 ・農場西側約2.5kmに湖、北側約2kmに沼、東側約2kmに海があるなど水域に囲まれている。湖では数羽のカモ類を確認。	・農場は平坦地に位置し、付近は雑木林、草地、沢に囲まれている。農場周辺にはため池が複数あり
疫学情報			
生体の直近の導入日・頻度等	0日齢で導入直近の導入はR4年10月5日~7日	約120日齢で導入直近の導入はR4年12月13日	隣接する育成農場から導入115日齢直近の導入はR5年1月10日
生体の直近の出荷日・頻度等(捕鳥・輸送)	45~48日齢で出荷(捕鳥)自社社員20名	700~720日齢直近はR4年12月1日	外部の業者に委託730日齢直近はR5年2月17日
種卵の直近の導入日・頻度等	-	-	-
食用卵・種卵の直近の出荷日・頻度等	-	衛生管理区域外にある農場内GPセンターに搬出	近隣のスーパーに出荷搬出車両は農場が用意配送は特定の業者に委託
集卵バーコンベア出口のシャッターの有無、ある場合に手動又は自動、隙間の有無、家きん舎外バーコンベア上のカバーの有無等	-	鶏舎開口部にはシャッター等はない	集卵ベルトの屋外のベルトラインはトタンで覆われ、ベルト出口はGPセンター建屋内にある
飼料業者(輸送)の直近の立入日・頻度等	複数の飼料会社(中部飼料・北日本くみあい飼料・日和産業・伊藤忠飼料)から購入。搬入は毎日、1~2回/日搬入。	飼料搬入業者は他の養鶏農場を掛け持ちしない。搬入は毎日搬入。	(飼料製造業者について言及なし)搬入は日曜以外毎日
敷料調達(輸送)頻度	2社から入糞前に購入	-	-
鶏糞・堆肥の直近の搬出日・頻度	オールアウト後に鶏糞を搬出し、農場外の自社処理場で堆肥化。	ベルトコンベアでトラックの荷台に直接排出。農場内の堆肥処理施設まで運搬。開放鶏舎については、下部に鶏糞が堆積、重機で運び出す。	週2回程度除糞装置を稼働し、トラックで敷地内の堆肥化施設に運搬し、堆肥化処理
除糞ベルト出口、ピット等のシャッター、蓋等の有無、隙間の有無等	-	無	有
死亡鶏出荷、処理の頻度等	衛生管理区域境界の蓋付き容器で一時保管後、自社運送者で回収し自社化製処理場等で処理。最後の回収はR4年11月18日	衛生管理区域境界にある冷蔵アルミコンテナに保管する。業者は衛生管理区域外からクレーン車にて回収。	専用の蓋つきバケツに収集し、毎日回収して農場内の焼却炉で焼却処分
作業従事者	2名(この他、系列会社社員1名が日常的に来場し状況を確認)	18名	13名
外国人従業員 ○:あり(鶏舎に入る) △:あり(鶏舎に入らない) ×:農場に入らない 海外渡航歴	なし	なし	○(鶏舎に入る) 過去3年間海外渡航歴なし
管理獣医師	系列会社所属の獣医師。立入頻度は検案等の必要時のみ。	管理獣医師あり。立入頻度は検案等の必要時のみ。過去21日間なし	民間施設の獣医師。立入頻度は年2回。検案等必要時は随時。
動物用医薬品	出荷中のため直近の投薬はなし	直近の投薬はなし	直近の投薬はなし。
その他衛生管理区域への立入り状況	ガス業者(R4年11月12日) 機械メンテナンス業者(R4年11月11日)	草刈(~R4年11月末、シルバー人材) ガス検針(R4年12月9日、社員寮) メンテナンス業者(R4年12月8日、1-6号) 電気点検(R4年12月7日)	鶏舎金網修理業者(R5年1~2月)
その他特記事項	R3年シーズンの発生農場	-	-

疫学情報まとめ 茨城県＜6事例＞

	4例目	47例目	56例目	72例目	73例目	76例目
農場情報						
農場所在都道府県	茨城県	茨城県	茨城県	茨城県	茨城県	茨城県
農場所在市町村	かすみがうら市	笠間市	城里町	かすみがうら市	八千代市	坂東市
発生日(疑似患者判定日)	R4年11月4日	R4年12月22日	R5年1月9日	R5年2月2日	R5年2月3日	R5年2月10日
用途	採卵鶏	採卵鶏	採卵鶏	ほろほろ鳥、あひる、鶏	採卵鶏	採卵鶏
飼養形態	ケージ飼	ケージ飼	ケージ飼	ケージ飼1棟(発生家きん舎、ほろほろ鳥のみ飼養) 平飼い5棟	ケージ飼	ケージ飼
家きん舎数	12棟(ウインドウレス)	4棟(セミウインドウレス)	5棟10室(ウインドウレス)	6棟(セミウインドウレス)	6棟12鶏舎(ウインドウレス)	10棟(ウインドウレス)(育成舎2棟、成鶏舎8棟)
家きん舎・ケージ構造(発生鶏舎)	モニター有、屋根裏有 2階建て、グレーチングの床 各階低床式直立3段ケージ12列(6山)、通路7本	モニター有、屋根裏無 直立4段ケージ8列(4山)、通路5本 8羽/ケージ	モニター有、屋根裏無 3階建て、グレーチングの床 各階直立3段ケージ8列(4山)、通路5本 12~13羽/ケージ	モニター無、屋根裏無 1階建て 直立3段ケージ4列(2山)、通路3本	モニター有、屋根裏有 2階建て、グレーチングの床 各階直立3段ケージ4列(2山)、通路3本	モニター有、屋根裏有 2階建て、グレーチングの床 各階直立4段ケージ12列(6山)、通路7本 22羽/ケージ
発生鶏舎以外での殺処分前検査陽性	○	×	×	—	○	×
飼養羽数	約104万羽	約11万羽	約93万羽	約4800羽	約112万羽	約116万羽
うち発生鶏舎(通報時日齢)	約9万羽(292日齢)	約1.6万羽(562日齢)	約8.7万羽(615日齢)	約900羽(196、256、365、621日齢)	約8.6万羽(521日齢)	成鶏6号舎:13万羽(406日齢) 成鶏7号舎:13万羽(329日齢)
通報時の死亡状況	鶏舎後方1/4辺りから同心円状	死亡数の増加 まとまって死亡	死亡数の増加 まとまって死亡	死亡数の増加。死亡鶏は散在していたが、入口付近で多く分布	死亡数の増加。鶏舎中央から奥側でのまとまった死亡。	2鶏舎で、1ケージ内で4羽のまとまった死亡を確認。
発生日前日までの死亡羽数の推移(発生鶏舎)	(10~35)⇒43⇒47⇒98	(8)⇒15⇒10⇒15⇒20⇒496	(35)⇒36⇒40⇒45⇒35⇒113	(約3羽)⇒約170羽	27⇒41⇒1000以上	(15~20)⇒15~20
当該事例検出の契機(通報/検査)	通報	通報	通報	通報	通報	通報
当該事例から3km以内の発生事例(発生日、距離)(当該事例発生日までの事例)	なし	なし	なし	なし	なし	なし
周辺農場検査(発生状況確認検査・清浄性確認検査)、疫学関連家きん飼養農場解除検査、例外協議検査等の採材日	-	-	-	-	-	-
当該事例病態前21日以内の簡易実施日(全鶏舎(全)か病態鶏舎のみ(単)かの別)	-	-	-	-	-	-
当該事例通報時の簡易検査結果	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏11/11、生鶏0/2	死鶏11/11、生鶏1/2	死鶏11/11、生鶏0/2	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏6/11、生鶏0/2
当該事例通報時のPCR検査結果	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏10/11(うちA型のみ陽性2羽)、生鶏2/2
強制排気(発生家きん舎)(開放鶏舎の場合、壁に設置された換気扇からの排気を含む)	有(壁に換気扇)	有(壁に換気扇)	無	無	有(鶏舎屋根上部のインレットから吸気)	有(天井から入気)
至近のため池等の水場からの距離	農場地内にため池あり	600mと800mの位置にため池	630mの位置にため池	約1km	約700m	約500mの位置に川
周辺状況	・台地上に位置し、周囲はため池・林・農場敷地内のため池にコガモ、農場から3.3kmのため池にカモ類	・周囲に杉林や雑木林あり。・斜面下に水田等の農地あり。・周辺にため池あり、カモ類、カラスを確認。	・当該農場は、平野部につながる丘陵地の中腹に位置し、付近は杉林や雑木林、田畑に囲まれている。・雑木林でカラス等の野鳥を確認	・平野部に位置し、周囲は雑木林・そば畑	・周囲に住宅や工場が点在する平地。・農場境界にカラスウリ等の木が並んでいる箇所有。	・農場周囲に田畑、林、産廃置き場
疫学情報						
生体の直近の導入日・頻度等	系列農場から120日齢で導入 直近の導入はR4年10月15日	過去21日間にはなし	系列農場から120日齢程度で導入 直近の導入はR4年12月23日	ほろほろ鳥の初生ひなはフランスから導入 直近の導入はH29年12月	系列農場から120日齢の大雛を導入。 直近の導入はR5年1月8日	県外の孵化場から0日齢で導入。
生体の直近の出荷日・頻度等(捕鳥・輸送)	出荷先: 外部食鳥処理場 捕鳥・輸送: 外注 出荷日齢: 約714日令 出荷日: R4年10月16日~10月18日(8号鶏舎)	出荷先: 産鶏処理業者 捕鳥・輸送: 外注 出荷日齢: 約670日令 過去21日間なし 出荷作業は鶏舎奥側の搬出口から搬出。	出荷先: 3社の産鶏処理業者 捕鳥・輸送: 外注 出荷日齢: 約700日令 過去21日間なし(直近はR4年12月2日) 出荷作業は、鶏舎奥側の搬出口から搬出	ほろほろ鳥については場内で孵化させた初生雛を日本各地の肥育農場へ販売。搬出は自社の車。 出荷先: 肥育農場へ搬出。場内で肥育後、場内の食鳥処理施設で処理。あひるについては初生雛及び成体を、鶏については成体を外部農場へ出荷。半年以上出荷無。	出荷先: 3社の産鶏処理業者 捕鳥・輸送: 外注 出荷日齢: 約700日令 過去21日間出荷なし。	約700日齢で産鶏として1km先の産鶏処理業者への引き渡し場に移動してから県内食鳥処理場へ出荷。直近はR5年2月4日~7日の4日間。
種卵の直近の導入日・頻度等	-	-	-	-	-	-
食用卵・種卵の直近の出荷日・頻度等	系列のGPセンターに毎日出荷。	系列のGPセンターに毎日出荷。	系列のGPセンターにほぼ毎日出荷	ほろほろ鳥の無精卵はレストラン等に販売。出荷は一般の集配業者	衛生管理区域外に併設されたGPセンターへ直接集約される。	つくば市内のGPセンターに出荷。
集卵バーコンベア出口のシャッターの有無、ある場合に手動又は自動、隙間の有無、家きん舎外バーコンベア上のカバーの有無等	出口にシャッター無し	集卵ベルトにフラップ無し	出口にシャッター有 家きん舎外バーコン上のカバー有 隙間無	—	鶏舎外バーコンは防鳥ネットで覆われていたが一部破れあり 出口にシャッターなし	集卵バーコンはすべて建屋の中を通る(出口にシャッターは無し)
飼料業者(輸送)の直近の立入り日・頻度等	飼料会社2社 日曜日以外は毎日搬入あり。	1週間に4回程度、飼料運搬会社2社が飼料搬入	3社の飼料が毎日搬入 鶏舎横の飼料タンクからインラインで給餌	直近R5年1月26日 週に1回程度	4社の飼料がほぼ毎日搬入。	ほぼ毎日搬入。
敷料調達(輸送)頻度	-	-	-	市内の建築業者から	-	-
鶏糞・堆肥の直近の搬出日・頻度	鶏糞ベルトで鶏舎から搬出し、農場内のコンポストで処理。一部の生糞、一次発酵産物は、堆肥処理施設に搬出し処理。	除糞ベルトにより、1-1号舎の奥側から鶏舎外に搬出、鶏糞は鶏糞運搬車に積載。 第二農場敷地内の堆肥舎に運搬し、鶏糞を積み下ろす	除糞ベルト、ベルトコンベアで鶏舎から堆肥舎まで直接運搬され、堆肥化地奥の空き地に野積み。	週に一度、出入口と反対側の扉から冬は一輪車で載せて搬出し、農場敷地奥の空き地に野積み。	ケージ上部に設置されたベルトに運ばれ乾燥、完全に乾燥した後、ベルトコンベアで堆肥舎へ搬出。	除糞ベルトで堆肥舎へ搬出。 堆肥舎においてコンポストで発酵後、二次発酵施設へ。
除糞ベルト出口、ピット等のシャッター、蓋等の有無、隙間の有無等	鶏糞ベルトピットは搬出終了後蓋の設置。搬出時以外は蓋を管理にしています。	無	鶏舎から堆肥舎まで地下を通り直接運搬。出口にシャッター無し	除糞ベルトは故障のため稼働していない。ピットの鶏舎内の開口部はコンパネで覆われていたが、スリで隙間有。除糞ベルトはケージ下のみ設置されており、ベルト末端は鶏舎内のため外へのシャッターなし。	鶏舎外除糞ベルトはカバーで覆われていた。シャッターは無し。	除糞ベルトの開口部は稼働時以外は板で塞がれていた。
死亡鶏出荷、処理の頻度等	冷蔵コンテナに一時保管後、週一回業者が回収	健康観察時に回収、鶏糞処理業者が除糞ベルトの鶏舎外側後部まで運び、鶏糞に混ぜて堆肥化	鶏舎のドアに設置された運搬用窓から鶏舎外に排出。鶏舎外で別の従業員が蓋つき容器に入れて冷蔵保管し、レンジラジ業者が週1回程度回収。	家きん舎脇に掘った溝の中に廃棄、もしくは、農場敷地奥の空き地に野積み。	毎日、鶏舎から運搬用コンテナで搬出し、冷凍コンテナで保管。その後、レンジラジ業者が回収	健康観察時にペール缶に回収し、除糞ベルト稼働時に鶏糞と一緒に回収し、コンポストへ投入。
作業従事者	59名(うち、鶏舎管理は12名(鶏舎ごと1名))	11名	40名 うち農場主1名 管理者3名 飼養管理7名 鶏糞作業8名 集卵作業15名 鶏糞搬出3名 メンテナンス3名	5名(うち、3名が飼養管理担当)	42名(12名が鶏舎管理担当(うち8名は外国籍(タイ、ベトナム、フィリピン))	68名 うち23名が成鶏舎、13名が育成舎の飼養管理担当
外国人従業員 ○:あり(鶏舎に入る) △:あり(鶏舎に入らない) ×:農場に入らない 海外渡航歴	外国人従業員○ 海外渡航履歴1名(タイ)1年前 帰国後2週間待機期間	○ 直近21日間の海外渡航歴なし	○ 過去90日間の海外渡航歴なし	なし	○	△
管理獣医師	2ヶ月に1回程度管理獣医師が訪問。直近の訪問はR4年9月。	管理獣医師あり、月に2~3回程度来場。	管理獣医師あり、月1回程度来場。	管理獣医師あり 来場は1年以上前	管理獣医師あり 直近1ヶ月の訪問は無し	管理獣医師はいるが、冬の間は鶏舎に立ち入ることなく、農場内の衛生管理体制についての助言・指導を受けている
動物用医薬品	系列動薬事業部より発注 投薬なし 空舎鶏舎消毒用	直近21日間の販売代理店の立入なし	本部から搬入 直近はR4年12月24日	販売代理店(直近はR5年1月25日)	直近21日間立入なし	直近21日間立入なし
その他衛生管理区域への立入り状況	死亡鶏管理業者が週に1回立ち入り	なし	燃料業者(直近はR5年1月7日) 運送業者(直近はR5年1月6日) ガス業者(直近はR4年12月30日)	なし	なし	なし
その他特記事項	-	-	R1~2年シーズンの発生農場	-	-	-

疫学情報まとめ

群馬県<3事例>

	52例目	62例目	67例目
農場情報			
農場所在都道府県	群馬県	群馬県	群馬県
農場所在市町村	前橋市	前橋市	前橋市
発生日(疑似患者判定日)	R5年1月1日	R5年1月19日	R5年1月27日
用途	採卵鶏	採卵鶏	採卵鶏
飼養形態	ケージ飼	ケージ飼	ケージ飼
家きん舎数	4棟(セミウインドウレス1棟、空舎3棟) ※発生鶏舎はセミウインドウレス ※空舎は2年以上使用しておらず、うち1棟は柱と屋根のみ。2棟はケージ撤去で建物のみ	5棟(ウインドウレス) 各鶏舎は共通構造で、1棟当たり2鶏舎かつ二階建て構造	4棟(ウインドウレス1棟、開放3棟(1棟空舎)) ※発生鶏舎は開放鶏舎
家きん舎・ケージ構造(発生鶏舎)	モニター無、屋根裏無 1階建て 直立4段ケージ4列(2山)、通路3本 約7羽/ケージ	モニター有、屋根裏無 2階建て、グレーチングの床 <1階>直立4段ケージ <2階>直立5段ケージ 各階6列(3山)、通路4本 9-11羽/ケージ	モニター有、屋根裏無 1階建て 低床式直立6段ケージ
発生鶏舎以外での殺処分前検査陽性	-	○	×
飼養羽数	約1.5万羽	約45万羽	約5.3万羽
うち発生鶏舎(通報時日齢)	約1.5万羽(465日齢)※発生区画	約10万羽(132日齢)	約1.6万羽(405日齢)
通報時の死亡状況	死亡数の増加 奥の扉付近のケージでまとまった死亡を確認	死亡数の増加 鶏舎2階の1/3、3段目の1ケージに偏在して死亡	死亡数の増加。 散在だが、奥側で多い傾向
発生日前日までの死亡羽数の推移(発生鶏舎)	(0~2)⇒0⇒2⇒1⇒1⇒3 発生日:約40	(9)⇒2⇒10⇒13⇒0⇒13 発生日:0(午後に8羽が同ケージ内で死亡しているのを確認)	(1.3)⇒1⇒0⇒1⇒1⇒2 発生日:朝3羽、夕方30羽
当該事例検出の契機(通報/検査)	通報	通報	通報
当該事例から3km以内の発生事例(発生日、距離)(当該事例発生日までの事例)	なし	なし	62例目(R5年1月19日、約300m)
周辺農場検査(発生状況確認検査・清浄性確認検査)、疫学関連家きん飼養農場解除検査、例外協議検査等の採材日	-	-	R5年1月19日(62例目発生状況確認検査)
当該事例病鑑前21日以内の簡易実施日(全鶏舎(全)か病鑑鶏舎のみ(単)かの別)	-	-	-
当該事例通報時の簡易検査結果	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏10/11、生鶏0/2	死鶏11/11、生鶏0/2
当該事例通報時のPCR検査結果	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏11/11、生鶏1/2	死鶏11/11、生鶏0/2
強制排気(発生家きん舎)(開放鶏舎の場合、壁に設置された換気扇からの排気を含む)	有 手前側に設置されたクーリングパットから吸気	有 モニター屋根と鶏舎の側面のスリット窓から吸気する強制換気	無
至近のため池等の水場からの距離	約700m	約5m	約170m
周辺状況	・山の緩やかな斜面に位置し、上側は畑、下側は水田。 ・周辺には700m~1.6kmの範囲に6か所と、2.4km地点にカモ類の生息するため池あり	・当該農場は平野部にあり、周囲には小川、畑、民家が存在 ・周辺の池でカモ類を確認	・当該農場は平野部に位置 ・農場周辺には田畑や住宅が存在 ・公園に隣接
疫学情報			
生体の直近の導入日・頻度等	不定期に特定の農場から125日齢前後で導入。 過去21日間は導入なし(直近はR4年4月16日)	特定の農場から110日齢前後で導入。 直近の導入はR4年12月29日、30日	特定の農場から110日齢前後で導入。 過去21日間は導入なし(直近の導入はR4年7月8日)
生体の直近の出荷日・頻度等(捕鳥・輸送)	出荷先:食鳥処理場 捕鳥・輸送:外注 出荷日齢:約1,200日齢 過去21日間なし(直近はR3年12月8日)	出荷先:食鳥処理場 捕鳥・輸送:外注 出荷日齢:約580日齢 直近は1月7,9,10日	出荷先:食鳥処理場 捕鳥・輸送:外注 出荷日齢:約630~650日齢 過去21日間なし
種卵の直近の導入日・頻度等	-	-	-
食用卵・種卵の直近の出荷日・頻度等	出荷先:自社GPセンター 輸送:自社 隔日出荷	出荷先:敷地内GPセンターで包装し、小売店に出荷 輸送:外注 毎日出荷	出荷先:契約先GPセンター 輸送:GPセンターと同一会社 週3~4日出荷
集卵バーコンベア出口のシャッターの有無、ある場合に手動又は自動、隙間の有無、家きん舎外バーコンベア上のカバーの有無等	無	有	集卵ベルトの搬出口には金網及び覆いが設置されていたが、隙間も認められた
飼料業者(輸送)の直近の立入り・頻度等	一社より1種類の飼料を月1回購入。 直近はR4年12月27日	二社より5種類の飼料を購入。 ほぼ毎日搬入	一社より1種類の飼料を週3回購入。 直近はR5年1月23日、25日
敷料調達(輸送)頻度	なし	なし	なし
鶏糞・堆肥の直近の搬出日・頻度	鶏糞は週に2回、除糞ベルトを稼働し、農場内の堆肥舎で堆肥化。	糞ベルトとベルトコンベアで鶏舎から堆肥舎に直接運搬され、堆肥化	1週間に2回、除糞ベルトを稼働し、トラックで農場内の堆肥場に搬出
除糞ベルト出口、ピット等のシャッター、蓋等の有無、隙間の有無等	無 (蓋は設置されていたが、隙間を確認)	有 (稼働時以外は、搬出口の開口部はコンパネで塞がれている)	無 (除糞ベルトの搬出口には金網及び覆いが設置されていたが、隙間も認められた)
死亡鶏出荷、処理の頻度等	死亡鶏は鶏舎内で保管し、鶏糞に混ぜて堆肥化。	朝夕の健康観察時に回収し、鶏糞と一緒にベルトコンベアで直接堆肥舎に送られ、そのまま鶏糞とともに発酵処理	袋につめて外装を消毒したうえで堆肥場へ搬出
作業従事者	2名(うち飼養管理1名)	25名(うち鶏舎担当6名、堆肥舎1名、GPセンター17名、事務所1名)	6名(うち鶏舎管理1名)
外国人従業員 ○:あり(鶏舎に入る) △:あり(鶏舎に入らない) ×:農場に入らない 海外渡航歴	なし	○ 直近4ヶ月間での海外渡航歴なし	なし
管理獣医師	管理獣医師なし	系列の管理獣医師あり。年3回ほど定期的に来場 直近の訪問はR4年12月	管理獣医師なし
動物用医薬品	直近の投薬はなし	直近の投薬はなし	直近の投薬はなし
その他衛生管理区域への立入り状況	立入りなし	燃料業者(R4年12月29日、31日、R5年1月2日、5日、7日、10日、13日、16日)	機材メンテナンス業者(R4年12月28日)
その他特記事項	-	-	-

疫学情報まとめ 埼玉県<4事例>

	38例目	50例目	65例目	71例目
農場情報				
農場所在都道府県	埼玉県	埼玉県	埼玉県	埼玉県
農場所在市町村	深谷市	狭山市	行田市	日高市
発生日(疑似患者判定日)	R4年12月17日	R4年12月30日	R5年1月26日	R5年2月1日
用途	採卵鶏	採卵鶏	肉用あいがも	採卵用うずら
飼養形態	ケージ飼	ケージ飼	平飼	ケージ飼
家きん舎数	10棟(開放)	8棟(セミウインドウレス(うち空舎1))	3棟(開放2棟、プレハブ1棟)	3棟(開放)
家きん舎・ケージ構造(発生鶏舎)	モニター有、屋根裏無 高床式 A型3段ケージ8列(4山)、通路5本 2羽/ケージ	モニター無、屋根裏無 1階建て 直立5段ケージ4列(2山)、通路3列	モニター無、屋根裏無	モニター有、屋根裏有 直立8段(品種に応じ4段) 25羽/ケージ
発生鶏舎以外での殺処分前検査陽性	×	×	○	—
飼養羽数	約19.4万羽	約13万羽	約0.3万羽	約15万羽
うち発生鶏舎(通報時日齢)	8号鶏舎:約2.7万羽(480日齢) 10号鶏舎:約2.3万羽(280日齢)	約2.8万羽(400、500日齢)	約750羽(15日齢)	約5.7万羽(3か月齢)
通報時の死亡状況	死亡数の増加	死亡数の増加 かたまって死亡	死亡数の増加	死亡数の増加
発生日前日までの死亡羽数の推移(発生鶏舎)	8号鶏舎 (5.2)5⇒6⇒7⇒8⇒38 10号鶏舎 (6.3)6⇒6⇒10⇒11⇒38	(3.5)⇒15⇒約200	R5年1月10～16日:20羽 R5年1月17～24日:1羽 R5年1月25日:75羽	(12)19⇒12⇒12⇒20⇒32
当該事例検出の契機(通報/検査)	通報	通報	通報	通報
当該事例から3km以内の発生事例(発生日、距離)(当該事例発生日までの事例)	無	無	無	無
周辺農場検査(発生状況確認検査・清浄性確認検査)、疫学関連家きん飼養農場解除検査、例外協議検査等の採材日	—	—	—	—
当該事例病鑑前21日以内の簡易実施日(全鶏舎(全)か病鑑鶏舎のみ(単)かの別)	—	—	—	—
当該事例通報時の簡易検査結果	死鶏9/11、生鶏0/2	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏8/11、生鶏0/2	死鶏11/11、生鶏0/2
当該事例通報時のPCR検査結果	死鶏1/1、生鶏4/4	死鶏5/5	7/13	10/10
強制排気(発生家きん舎)(開放鶏舎の場合、壁に設置された換気扇からの排気を含む)	有	無	無	有 (家きん舎上部の給気口から給気)
至近のため池等の水場からの距離	約500m	約180m	400mの位置に幅10mの水路	約3～5mの位置に川
周辺状況	・周辺は平地であり、周囲には田畑が多い。 ・農場の横には川が流れており、川沿いの木々には多数のカラス類を確認。周辺の池ではカモ類を確認	・周辺に河川あり。カモ類確認 ・周辺は田畑や雑草地に囲まれている。	平野部に位置し、付近は水田に囲まれていた	・周辺に住宅地がある平野部に位置。 ・農場すぐそばに川
疫学情報				
生体の直近の導入日・頻度等	直近21日間は導入なし	直近の導入はR4年11月8日	直近の導入はR5年1月20日 発生ロットはR5年1月10日導入	農場内で孵化させたものを自家育成するため、通常は、外部からの初生鶏の導入はなし。血が濃くなった際に外部から導入。直近はR4年。
生体の直近の出荷日・頻度等(捕鳥・輸送)	直近の出荷はR4年12月6日	直近の出荷はR4年10月26日	出荷はR5年1月5、6、20、23日(いずれも別ロット)	依頼があれば3～4週の鶏を少数出荷(主に実験用) 直近はR5年1月23日、1月24日
種卵の直近の導入日・頻度等	—	—	なし	外部から種卵の導入はなし。
食用卵・種卵の直近の出荷日・頻度等	毎日出荷	毎日出荷	なし	1日1回採卵し、本社GPを経て出荷。加工会社向けは洗卵せず直接農場から出荷。種卵は洗浄せず研究施設や学校に少数出荷
集卵バーコンベア出口のシャッターの有無、ある場合に手動又は自動、隙間の有無、家きん舎外バーコンベア上のカバーの有無等	シャッター有(手動)	シャッターなし	—	—
飼料業者(輸送)の直近の立入り・頻度等	毎日来場	ほぼ毎日来場 直近の搬入はR4年12月29日	週1回タンクへ搬入 飼料業者の自家トラックで取りに行く	毎日搬入 飼料は4社の飼料会社が供給
敷料調達(輸送)頻度	—	—	もみがらは近隣の農家等から購入 稲わらはR4年10月に自己所有の田んぼで収穫されたものを倉庫に保管し利用	—
鶏糞・堆肥の直近の搬出日・頻度	週に3、4回ほど重機を用いて農場内の堆肥処理施設まで搬出	週に1回除糞ベルトを動作させて回収し、堆肥置き場へ移動 処理後の製品は、農家等に販売	発生鶏舎からの搬出は1年前	毎日除糞ベルトで回収。週3回、ベルトコンベアで鶏舎外へ運ばれ、タンクで堆肥舎へ搬出。その後、コンポストでたい肥化 搬出先:1社、まれに近隣農家に配布
除糞ベルト出口、ピット等のシャッター、蓋等の有無、隙間の有無等	除糞ベルトなし	除糞ベルト出口に金網有	—	除糞ベルトは地下を潜る形であったが、蓋がされており、隙間はなかった
死亡鶏出荷、処理の頻度等	バケツリフトに入れて堆肥処理施設横の腐鶏処理装置に運搬、処理後、鶏糞とともに堆肥化	毎朝の見回り時に回収し、毎日、農場内の堆肥置き場か堆肥処理施設に運んで処理	家きん舎横でもみがらと一緒に焼却	死亡鶏はコンポスト稼働時に投入し処理
作業従事者	12名	17名	1名	10名
外国人従業員 ○:あり(鶏舎に入る) △:あり(鶏舎に入らない) ×:農場に入らない 海外渡航歴	あり	なし	なし	なし
管理獣医師	管理獣医師あり。 直近は1か月以上訪問なし。	管理獣医師あり R4年11月以降立入りはない	管理獣医師なし	管理獣医師あり 来場は年1回程度(直近1か月の訪問はなし)
動物用医薬品	直近はなし	直近はなし	ワクチン接種等はない	直近はなし
その他衛生管理区域への立入り状況	—	宅配業者	ガス会社(農場入口付近に立ち入るのみ)	ネズミ駆除業者(月2回来場)
その他特記事項	—	—	R5年1月9日に別2ロットにて獣害あり。(124羽、699羽の被害)	—

疫学情報まとめ 千葉県<6事例>

	18例目	53例目	64例目	68例目	70例目	75例目
農場情報						
農場所在都道府県	千葉県	千葉県	千葉県	千葉県	千葉県	千葉県
農場所在市町村	香取市	旭市	匝瑳市	匝瑳市	匝瑳市	横芝光町
発生日(疑似患者判定日)	R4年11月26日	R5年1月3日	R5年1月22日	R5年1月27日	R5年1月28日	2月10日
用途	野鳥誘因用のあいがも	採卵鶏	採卵鶏	採卵鶏	採卵鶏	あひる、合鴨
飼養形態	平飼	平飼	ケージ飼	ケージ飼	ケージ飼	平飼
家きん舎数	1鶏舎(開放)	5鶏舎(開放) (発生鶏舎は内部で5区画に分かれていた。)	成鶏舎5棟(セミウインドウレス、発生鶏舎あり)、育成舎1棟、育雛舎1棟	5棟8鶏舎(ウインドウレス)	8棟8鶏舎(ウインドウレス)	開放9棟(発生)ウインドウレス1棟(育雛用)
家きん舎・ゲージ構造(発生鶏舎)	3×6mの土地に防鳥ネットを小屋状に設置	モニター有、屋根裏有無各鶏舎内部を5区画に区分、各鶏舎は入口側の共有通路で繋がる	モニター有、屋根裏無2階建て、グレーチングの床、各階直立3段ケージ6列(2山)、通路3本	モニター有、屋根裏有2階建て、グレーチングの床直立8段ケージ6列(3山)、通路4本、7羽/ケージ	モニター無、屋根裏無2階建て、グレーチングの床直立8段ケージ6列(3山)、通路4本、7羽/ケージ	モニター無、屋根裏無
発生鶏舎以外での殺処分前検査陽性	×	—	—	×	—	○
飼養羽数	21羽	約1.0万羽	約14万羽	約24万羽	約25万羽	約5000羽
うち発生鶏舎(通報時年齢)	21羽(3年以内の導入個体はなし)	約0.2万羽(182日齢)	約2万羽(192日齢)	約3.3万羽(454日齢)	約3万羽(547日齢)	約1000羽(-)
通報時の死亡状況	R4年11月22日より死亡数の増加	死亡数の増加(発生鶏舎中の5区画の内、中央の1区画で)	死亡数の増加 かたまって死亡	鶏舎1階の入口に最も近い南側インレット直下の列で、中央付近の連続する3ケージで1羽ずつ死亡。その背後ケージで1ケージ内にまとまって4羽の沈黙鶏を確認。	鶏舎1階の最も南側に位置する列で10羽死亡。またその列の1ケージで、7羽中3羽のまとまった死亡、残る4羽の沈黙・嗜眠	死亡状況に変化なし。 産卵数の約6割の落ち込み。
発生日前日までの死亡羽数の推移(発生鶏舎)	(0)⇒1~3(複数日)⇒2	(0)0⇒0⇒0⇒0⇒30	(0~3)⇒2⇒1⇒3⇒4⇒5⇒9	(5~25:平均18)⇒15⇒11⇒14⇒25⇒17	(4~29:平均13)⇒20⇒13⇒12⇒11⇒20	(0~1)⇒1⇒0⇒0⇒1⇒1
当該事例検出の契機(通報/検査)	通報	通報	通報	通報	通報	通報
当該事例から3km以内の発生事例(発生日、距離)(当該事例発生日までの事例)	無し	無し	無し	64例目(R5年1月22日)、70例目(R5年1月28日)	64例目(R5年1月22日)、68例目(R5年1月27日)	無し
周辺農場検査(発生状況確認検査・清浄性確認検査、疫学関連家きん飼養農場解除検査、例外協議検査等の採材日)	—	—	—	R5年1月22日(発生状況確認検査64例目)	R5年1月22日(発生状況確認検査64例目)	1月28日(65、69例目あひる発生に伴い立ち入り(簡易、ELISA、環境材料のPCR))
当該事例病鑑前21日以内の簡易実施日(全鶏舎(全)か病鑑鶏舎のみ(単)かの別)	—	—	R5年1月21日 管理獣医師が単鶏舎で実施(3羽気管 全例陰性)	—	—	—
当該事例通報時の簡易検査結果	死鶏7/7、生鶏5/6	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏9/11、生鶏1/2	死鶏7/11、生鶏2/2	死鶏1/1、生鶏68/12	生あひる7/13
当該事例通報時のPCR検査結果	死鶏7/7、生鶏3/3	死鶏7/11、生鶏1/2	死鶏10/11、生鶏2/2	死鶏7/11、生鶏2/2	死鶏1/1、生鶏12/12	13/13
強制排気(発生家きん舎)(開放鶏舎の場合、壁に設置された換気扇からの排気を含む)	無	無	有(鶏舎手前側壁面に給気面(クーリングパッド)、奥側壁面に排気ファンがあり、自動制御)	有(発生家きん舎・鶏舎奥の換気扇から排気、鶏舎南側側面のインレットからのみ入気)	有(発生家きん舎・鶏舎奥の換気扇から排気、鶏舎南側側面のインレットからのみ入気)	無
至近のため池等の水場からの距離	約800m離れているところに河川(カモ類確認)	川まで直線距離約500m	用水路、水路が農場に隣接	約3km	約1km弱	約3.6km
周辺状況	・平野部に位置、付近は水田	・発生農場は海沿いの平野部に位置し、周辺は田畑やビニールハウスに囲まれていた	・平野部に位置し、付近は水田に囲まれている ・小川が農場に隣接 ・農場から約1.1kmに調整池あり	・64例目の発生農場から南に約1.8km離れた平野部に位置し、付近は水田に囲まれている。	・64例目の発生農場から南に約250m、68例目の発生農場から北に約1.1km離れた平野部に位置し、付近は水田や畑地に囲まれている。	・平野部に位置し、付近は水田に囲まれている。
疫学情報						
生体の直近の導入日・頻度等	3年以内の導入個体はなし	102日齢の大雛をR5年10月14日に導入。 導入頻度は約4か月に1回。	R5年1月6日 初生雛を導入。	直近は非発生鶏舎にR4年12月28日に導入	約115日齢で導入 直近は非発生鶏舎にR4年12月28日に導入	以前はイギリスから初生雛を導入していたが、HPAIの発生により導入出来なくなったためR2年シーズン以降は自家育成。
生体の直近の出荷日・頻度等(捕鳥・輸送)	無し	550日齢で出荷 直近の出荷はR4年7月14日頃 捕鳥・輸送は出荷先処理業者。	出荷先:食鳥処理場 捕鳥・輸送:外注 出荷日齢:約510日 過去21日間出荷無し(直近はR4年10月)	直近はR4年1月21日に非発生鶏舎から出荷	R4年11月下旬に非発生鶏舎から出荷	場内で孵化させたあひるの初生雛を他の農場、稲作シーズンは合鴨を稲作農家に出荷。 直近の出荷日は10月20日。
種卵の直近の導入日・頻度等	なし(全て3年以内に自施設で産卵されたもの)	無し	無し	無し	無し	無し
食用卵・種卵の直近の出荷日・頻度等	していない	農場敷地内のGPセンターでパックングし出荷。直近はR4年12月28日。 輸送は畜主が行い、毎日出荷。	系列のGPセンターに毎日出荷。 輸送:GP専属の運送業者	出荷先:系列のGPセンター 毎日出荷 輸送:外注	出荷先:系列のGPセンター 毎日出荷 輸送:外注	製菓会社に月1回程度出荷。ほか直近では研究用に数十個を数週続けて出荷。
集卵バーコンベア出口のシャッターの有無、ある場合に手動又は自動、隙間の有無、家きん舎外バーコンベア上のカバーの有無等	集卵装置なし	集卵装置なし	有り(稼働時は自動で開き、稼働後は手動で閉鎖する。コンベアはコンパネのカバーで覆われ、隙間はなかった。)	鶏舎外バーコン上部に囲い屋根。鶏舎外バーコンの鶏舎に近い部分の下部及び鶏舎出口に防鳥ネットの設置。隙間はなかった。	鶏舎外バーコン上部に囲い屋根。鶏舎外バーコンの鶏舎に近い部分の下部及び鶏舎出口に防鳥ネットの設置。隙間はなかった。	—
飼料業者(輸送)の直近の立入日・頻度等	近隣米作農家から購入したくず米とホームセンターで購入した鶏用配合飼料を混合し給与(外部業者の立ち入りはない)	飼料業者の来場頻度は週1~2回、直近はR4年12月30日。	飼料会社1社がほぼ毎日搬入	飼料会社は3社、1運送業者が2~3日に1回程度配達。グループ法人の自家配合飼料を給与、配送も同法人(毎日)。	飼料会社は4社、1運送業者が3~4日に1回程度配達。グループ法人の自家配合飼料を給与、配送も同法人(毎日)。	飼料会社2社が毎日供給。
敷料調達(輸送)頻度	—	近所の農家から年に1度10月頃にもらうけ。	—	—	—	数か月に1回程度、業者より購入し衛生管理区域外の倉庫に搬入。鶏舎使用開始時は、床汚れがみられたところに撒く。家畜のアウト後、敷料などはコンポストで発酵処理後、畑などへ散布。
鶏糞・堆肥の直近の搬出日・頻度	実施せず	オールアウト後に搬出し、近隣農家に配布。過去21日間搬出無し。	鶏舎ごとに3日間隔でローテーションで除糞ベルトを稼働し、堆肥倉に搬送。	除糞ベルト及びベルトコンベアで衛生管理区域外の堆肥倉に搬出。一次発酵。系列の育成場の鶏糞も当該堆肥倉に搬入。 約1週間の1次発酵後、約2日に1度、二次・三次発酵槽に搬出し、堆肥化。	3日に1度除糞ベルトで鶏舎外に排出。鶏舎裏隣接の小屋内でダンパーに積載後、衛生管理区域外の一次発酵堆肥倉へ運搬。一次発酵の後、近隣の二次・三次発酵堆肥倉に搬出し、さらに発酵処理。	堆肥倉に一時保管したあと、数ヶ月かけて農場内の大型コンポスト装置で処理。
除糞ベルト出口、ピット等のシャッター、蓋等の有無、隙間の有無等	除糞装置なし。除糞作業も実施せず。	除糞装置なし。	除糞ベルトの鶏舎出口にはカバーがあり、さらにネットで覆っている。	有り ピットの鶏舎内開口部は板で閉鎖。ベルトコンベアの鶏舎出口には防鳥ネットが設置。	有り。(ピットの鶏舎内開口部は板で閉鎖。除糞ベルトの出口は鶏舎隣接の小屋内にあったが、小屋の入口のシャッターに隙間が開いていた(発生鶏舎))	—
死亡鶏出荷、処理の頻度等	自己所有の畑に埋却	毎日の飼養管理時に回収し、各区画間にある空き地に膝丈ほどの穴を掘り埋却	各鶏舎の見回り担当者が鶏舎入り口付近にまとめて置いておき、収集の担当者が鶏舎内に立ち入らないよう各鶏舎から回収し、農場内の死鶏処理機で処理	毎日鶏舎から回収し、すぐに衛生管理区域外の焼却炉で処理	毎日鶏舎から回収し、すぐに衛生管理区域外の焼却炉で処理	数ヶ月かけて農場内の大型コンポスト装置で処理。
作業従事者	2名	9名(うち鶏舎管理は3名)	8名(2名:鶏糞処理、6名:飼養管理、集卵作業)	9名(飼養管理4名、集卵作業3名、鶏糞作業1名、修理補修1名)	10名(飼養管理5名、集卵作業3名、鶏糞作業・発酵槽管理1名、修理補修・資材運搬等2名)	5名(3名:飼養管理担当、2名:野鳥施設担当)
外国人従業員 ○:あり(鶏舎に入る) △:あり(鶏舎に入らない) ×:農場に入らない 海外渡航歴	なし	なし	○ 過去30日間の海外渡航歴なし	○ 正社員。直近数か月の渡航歴はなし	○ 正社員。直近数か月の渡航歴はなし	○
管理獣医師	なし	管理獣医師あり。電話やメールで連絡をとっていたが、直近2年の来場はなし。	管理獣医師あり。立ち入り頻度は年1回以下。 R5年1月21日病性鑑定実施前に立ち入り、簡易検査実施	管理獣医師あり 過去2か月来場なし。シーズン以降来場なし。	管理獣医師あり 過去2か月来場なし。シーズン以降来場なし。	管理獣医師あり(定期的な訪問はない) 直近の訪問は、12月に家畜保健衛生所の獣医師
動物用医薬品	なし	直近の投薬は無し	直近の投薬無し	シーズン以降来場はなし。もともと衛生管理区域には入らない。	シーズン以降来場はなし。もともと衛生管理区域には入らない。	直近の投薬はなし
その他衛生管理区域への立入り状況	なし	業者の立ち入り無し	ガス業者(直近は R5年1月13日)	ネズミ駆除業者等飼料業者以外の業者は、シーズン以降来場はなし	ネズミ駆除業者等飼料業者以外の業者は、シーズン以降来場はなし	2月4日:飼料運送会社
その他特記事項	—	—	R3年2月に発生	—	—	令和3年1月に高病原性鳥インフルエンザの発生

疫学情報まとめ

新潟県<5事例>

	11例目	55例目	59例目	78例目	79例目
農場情報					
農場所在都道府県	新潟県	新潟県	新潟県	新潟県	新潟県
農場所在市町村	阿賀町	村上市	上越市	胎内市	胎内市
発生日(疑似患者判定日)	R4年11月18日	R5年1月6日	R5年1月13日	R5年3月6日	R5年3月12日
用途	肉用鶏	採卵鶏	採卵鶏	採卵鶏	採卵鶏
飼養形態	平飼	ケージ飼	ケージ飼	ケージ飼	ケージ飼
家きん舎数	6棟(ウインドウレス。1棟に2鶏舎あり)	12棟(ウインドウレス、内部で2区画に分割)	17棟(成鶏14、育成3棟、開放)	7棟(ウインドウレス)	5棟(セミウインドウレス)
家きん舎・ケージ構造(発生鶏舎)	1棟2鶏舎、中央に通路、中央通路の上部はモニター構造の屋根。中央通路側面は全面壁で区切られている。	モニター有、屋根裏無 直立8段ケージ8列(4山)、通路5本 45段目にグレーチングの床 7羽/ケージ	モニター無、屋根裏無 低床式 2段ケージ8列、通路5本	モニター無、屋根裏無 直立8段ケージ10列(5山)、通路6本 45段目にグレーチングの床 10羽/ケージ	モニター有、屋根裏無 直立8段ケージ8列(4山)、通路5本 45段目にグレーチングの床 6羽/ケージ
発生鶏舎以外での殺処分前検査陽性	×	×	×	×	×
飼養羽数	約15万羽	約130万羽	約11万羽	約68万羽	約33万羽
うち発生鶏舎(通報時年齢)	約1.3万羽(38日齢)	約6.2万羽(191日齢)	約0.8万羽(468日齢)	約9.5万羽(360日齢)	約6.3万羽(793日齢)
通報時の死亡状況	入口付近でまとまって死亡	3ケージにまとまって死亡	死亡数の増加 まとまって死亡	死亡数の増加 まとまって死亡	1ケージに5羽死亡
発生日前日までの死亡羽数の推移(発生鶏舎)	8⇒16⇒8⇒168⇒48	(平均13.2羽)、10⇒7⇒8⇒8⇒18	(0⇒2)0⇒0⇒8⇒8⇒15	(平均13.7羽)、14⇒24⇒14⇒11⇒75	(平均50羽)、74⇒66⇒69⇒72⇒100羽
当該事例検出の契機(通報/検査)	管理獣医師が簡易検査を実施し陽性→通報	通報	通報	通報	通報
当該事例から3km以内の発生事例(発生日、距離)(当該事例発生日までの事例)	無	無	無	無	78例目(R5年3月6日、約500m)
周辺農場検査(発生状況確認検査・清浄性確認検査)、疫学関連家きん飼養農場解除検査、例外協議検査等の採材日	-	-	-	-	R5年3月6日(78例目発生状況確認検査)
当該事例病鑑前21日以内の簡易実施日(全鶏舎(全)か病鑑鶏舎のみ(単)かの別)	-	-	-	-	-
当該事例通報時の簡易検査結果	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏11/11、生鶏1/2	死鶏3/11、生鶏0/2
当該事例通報時のPCR検査結果	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏3/11、生鶏0/2
強制排気(発生家きん舎)(開放鶏舎の場合、壁に設置された換気扇からの排気を含む)	有 (棟中央通路の上部のモニターから入気(2cmの金網有)、中央側壁面に入気口(金網なし)、反対側壁面に排気ファンがあり、自動制御)	有(吸気はモニター部から天井裏に取り込まれた外気を鶏舎2階の天井にあるスリットから、排気は奥側のファンにより強制換気)	無	有(吸気は鶏舎側面上:道路側の1/3の吸気口から、排気は鶏舎後部:道路と反対側のファンによる強制換気。吸気の開口部にはワイヤーメッシュあり)	有(側面、前面から入気、天井部等にファンあり。)
至近のため池等の水場からの距離	60m	約1.0km	約200m	約250m	約250m
周辺状況	・山間に位置し、周囲は林 ・周辺に複数の池 ・農場から230mの池にオンドリ10羽	・周囲に山林と水田・田畑あり ・周辺の河川でカモ類を確認 ・約40cm積雪あり ・農場近隣の死亡カラス2羽でHPAI陽性(発生後に確認)	周辺に田畑や藪あり	・平野部に位置し、付近は畑や林に囲まれている ・海岸まで800m ・農場から250m程度離れたところに排水路あり	・平野部に位置し、付近は畑や林に囲まれている ・海岸まで800m ・農場から250m程度離れたところに排水路あり
疫学情報					
生体の直近の導入日・頻度等	年6回導入。直近導入はR4年10月	直近の導入はR4年12月25日(109日齢)	中雛(約55日齢)、または大雛(約120日齢)で導入 直近の導入はR4年11月24日	直近の導入はR5年2月27日(115日齢)	過去21日間なし(最終R4年3月)
生体の直近の出荷日・頻度等(捕鳥・輸送)	出荷先: 自社食鳥処理場 捕鳥・輸送: 外注 出荷日齢: 45~48日令 最終出荷: R4年11月17日	出荷先: 特定の食鳥処理場(2社) 歩調・輸送: 外注 出荷日齢: 約640日(BB) 最終出荷: R4年12月22日(637日令)	出荷先: 県内食鳥処理場 捕鳥・輸送: 同上 出荷日齢: 約550日齢 直近の出荷はR4年12月24日	出荷先: 特定の食鳥処理場(2社) 歩調・輸送: 外注 出荷日齢: 約720日令 最終出荷: R5年1月	出荷先: 特定の食鳥処理場(2社) 歩調・輸送: 外注 出荷日齢: 750日令以降 過去21日間なし(最終R5年1月)
種卵の直近の導入日・頻度等	-	-	-	-	-
食用卵・種卵の直近の出荷日・頻度等	-	毎日出荷	毎日出荷	毎日出荷	出荷先: 契約会社 土曜日を除く毎日出荷
集卵バーコンベア出口のシャッターの有無、ある場合に手動又は自動、隙間の有無、家きん舎外バーコンベア上のカバーの有無等	-	鶏舎間の開口部にはシャッターなし。集卵ベルトは覆われた構造、覆われていない部分はネット。	無 (集卵は従業員による手作業)	鶏舎ごとの出口シャッターはなし。集卵バーコンベアは屋内通路の下面を通っていた。コンベアの下面は二重の防鳥ネットに覆われていた。	シャッター有(開閉手動、隙間等なし) 舎外バーコンベアなし
飼料業者(輸送)の直近の立入り・頻度等	飼料会社で製造されたものを飼料運搬会社が、ほぼ毎日運搬	自社系列飼料センターと飼料会社の2か所から毎日運搬(農場直行)	飼料会社で製造された飼料を、運送会社が2日に1回程度搬入(火、木、土) 直近の搬入はR5年1月10日	自社系列飼料センターと飼料会社の2か所から毎日運搬(農場直行)	飼料会社から購入した飼料を自社の倉庫で保管し、飼料タンクへは自社の車両、ドライバーが運搬
敷料調達(輸送)頻度	業者から入手したもみ殻を敷料保管庫に保存。 入庫前に鶏舎に搬入。追加投入もあり。	-	-	-	-
鶏糞・堆肥の直近の搬出日・頻度	オールアウト後に除糞 堆肥舎に搬出し焼却炉で焼却 最終除糞: R4年9月	除糞ベルトを定期的に稼働させ、鶏舎奥側の外にある一時堆積場所に落とす上で、堆肥場の従業員が、重機により発酵槽(コンポスト)に投入	各鶏舎の鶏糞はアウト時及び半年に1回程度回収し、自社専属堆肥舎へ搬出 直近の搬出はR5年1月7日	各鶏舎4日ごとに、鶏糞ベルトにより堆肥舎に搬入され、コンポストで処理される	各鶏舎からの鶏糞は、4日に1回程度、コンベアで鶏舎に隣接する鶏糞積載場に停めたダンプの荷台に積み入れ、堆肥舎へ運搬されコンポストに投入
除糞ベルト出口、ピット等のシャッター、蓋等の有無、隙間の有無等	-	鶏舎外部に通じる出口ベルトは鉄板により閉鎖し、手動開閉 ピットには防鳥ネットを設置	除糞ベルト無 (各鶏舎半年に2回程度、ある程度鶏糞が蓄積した際に除去)	有 (鶏舎外の吐出口にはカバーが設置)	除糞ベルト鶏舎出口コンベア有(開閉手動) ピットのシャッター(あり)
死亡鶏出荷、処理の頻度等	農場入口の保管庫で冷蔵保管後、自社運搬車にて化製場に運搬し、処理	死亡鶏は朝の健康観察時に各鶏舎から集めて、重機で堆肥場に運搬し、発酵(コンポスト)処理	鶏舎毎に一時保管ボックスに入れ、夕刻に各鶏舎の死亡鶏を集めて加熱発酵処理をし、処理後は鶏糞に混ぜて搬出	回収後、農場内の専用の場所(シートの上やかごの中)に保管し、除糞用のベルトコンベアで堆肥舎に搬出し、堆肥化	各鶏舎担当者がポリバケツに集めて各鶏舎全舎に置いておき、1日1回ジョバカルで回収し、コンポストに投入
作業従事者	管理人2名 会社担当者: 1名 そのほか会社数名が必要に応じて飼養管理作業に従事	43名(従業員39名、パート4名)	24名(飼養管理7名、鶏糞作業1名、集卵作業16名)	従業員22名(鶏管理: 5名、集卵作業: 10名、堆肥管理: 7名)	17名(従業員14名、パート3名)
外国人従業員 ○: あり(鶏舎に入る) △: あり(鶏舎に入らない) ×: 農場に入らない 海外渡航歴	なし	なし	なし	なし	なし
管理獣医師	自社の獣医師。 少なくとも2か月に1回は巡回。検案時は随時。	契約獣医師あり、定期的に来場。 最後の訪問はR4年10月	管理獣医師あり。 月に2回程度農場を訪問しており、最近の訪問はR4年12月末	契約獣医師あり、定期的に来場。 最後の訪問はR4年10月	管理獣医師は冬季の出入りはなし
動物用医薬品	16日齢でNDワクチン	IBワクチン(導入1週後、210日令、300日令、390日令、強制・誘導換羽前14日、後70日)	販売代理店の来訪はなし。 投薬状況: 95日令 NBAC.EDS (直近の投薬は、R5年1月7日~1月11日)	R5年2月23日 IBワクチン(5号舎210日令)	強制換羽後NB/TMワクチン 直近の投薬なし
その他衛生管理区域への立入り状況	なし	R4年12月20日 家保 R4年12月27日 自販機の業者	なし	R5年3月2、4日 土木作業業者 R5年3月2、3日 脱臭装置業者 R5年3月2日 警備会社 R5年3月1日 防鼠業者	R5年3月6日 家保 R5年3月3日 配達業者 R5年3月1日 点検業者
その他特記事項	-	-	-	-	-

疫学情報まとめ 岡山県<4事例>

	1例目	5例目	7例目	43例目
農場情報				
農場所在都道府県	岡山県	岡山県	岡山県	岡山県
農場所在市町村	倉敷市	倉敷市	倉敷市	美咲町
発生日(疑似患者判定日)	R4年10月28日	R4年11月4日	R4年11月11日	R4年12月20日
用途	採卵鶏	採卵鶏	採卵鶏	肉用あひる
飼養形態	ケージ飼	ケージ飼	ケージ飼	平飼
家きん舎数	5棟(セミウインドウレス3棟、開放2棟) ※発生鶏舎はセミウインドウレス	9棟(2階建てウインドウレス8棟、2階建て開放1棟) ※発生鶏舎は2鶏舎で、いずれもウインドウレス2棟	4棟(ウインドウレス×1、開放×1、不使用×2) ※発生鶏舎はウインドウレス	9棟(開放、うち空舎1棟)
家きん舎・ケージ構造(発生鶏舎)	モニター有、屋根裏無 2階建て、グレーチングの床 各階直立3段ケージ8列(4山)、通路5本	①モニター無、屋根裏無 2階建て鶏舎の2階(1階、2階で別の鶏舎として整理)。 各階直立4段ケージ8列(4山)、通路5本。 ②モニター無、屋根裏無 2階建て鶏舎の2階(1階、2階で別の鶏舎として整理)。 各階直立4段ケージ8列(4山)、通路5本	モニター有 2階建て(発生鶏舎内で南・北、1階・2階の4部屋に分かれる) 各部屋あたり直立4段ケージ4列(2山)、通路3本	モニター有、屋根裏無 鶏舎内は中央の扉によって2区画に区分
発生鶏舎以外での殺処分前検査陽性	○(A2鶏舎)	×	×	○(2号、3号、11号、12号、B号、C号)
飼養羽数	約17万羽	約51万羽	約3.4万羽	約2.3万羽
うち発生鶏舎(通報時日齢)	約3万9千羽(556日齢)	約2万7千羽(約85週齢)+約2万9千羽(約77週齢)	約1.1万羽	約0.1万羽(35日齢)
通報時の死亡状況	2階の中央やや奥側に集中。翌日には直下の1階エリアでも増加。	2鶏舎で、複数羽まとまった死亡を確認	ウインドウレス鶏舎北側1階奥のケージで、2羽死亡、複数羽衰弱	死亡数の増加
発生日前日までの死亡羽数の推移(発生鶏舎)	(10~15)⇒35⇒95	全体の死亡羽数に変化なし。隣接する数ケージで複数羽まとまった死亡が認められたため通報	1ケージ内で複数羽の死亡、衰弱が見られたため通報	発生鶏舎(2)86⇒157⇒443⇒約400⇒約400
当該事例検出の契機(通報/検査)	通報	通報	通報	通報
当該事例から3km以内の発生事例(発生日、距離)(当該事例発生日までの事例)	無	無	5例目(R4年11月4日) ※5例目のすぐ隣に位置。	無
周辺農場検査(発生状況確認検査・清浄性確認検査)、疫学関連家きん飼養農場解除検査、例外協議検査等の採材日	-	-	R4年11月4日(発生状況確認検査5例目)	R4年12月20日発生状況確認検査兼家きん卵出荷検査 R5年1月4日清浄性確認検査
当該事例病鑑前21日以内の簡易実施日(全鶏舎(全)か病鑑鶏舎のみ(単)かの別)	-	-	-	-
当該事例通報時の簡易検査結果	死鶏10/11、生鶏2/2	①死鶏11/11、生鶏2/2 ②死鶏7/7、生鶏4/6	死鶏4/6、生鶏4/7	死鶏6/11、生鶏0/2
当該事例通報時のPCR検査結果	13/13	①13/13 ②13/13	9/10	13/13
強制排気(発生家きん舎)(開放鶏舎の場合、壁に設置された換気扇からの排気を含む)	無(発生時はカーテンの開閉による自然換気)	有(クーリングパッドから吸気)	有(クーリングパッドから吸気)	無
至近のため池等の水場からの距離	約350m	80m	250m	約320m
周辺状況	・山間に位置し、周囲は林 ・農場周辺に複数のため池、農場を縦断する沢あり ・農場から350mのため池にカモ類	・山間に位置し、周囲は森林 ・周囲に複数のため池	・山間に位置し、周囲は森林や竹林 ・周辺に複数の池	・山間に位置し周囲に森林。 ・農場周辺には複数のため池が存在
疫学情報				
生体の直近の導入日・頻度等	120日齢程度 直近は非発生鶏舎にR4年8月頃に導入	120日齢程度 直近は、非発生鶏舎にR4年9月頃に導入	120日齢程度 直近は、非発生鶏舎にR4年5月頃に導入	初生雛を週に1度導入
生体の直近の出荷日・頻度等(捕鳥・輸送)	直近はR4年8月頃に産卵出荷	直近は、R4年10月21日に非発生鶏舎から出荷	直近はR4年8月頃に産卵出荷	系列の食鳥処理場(農場に隣接)約50日齢で、R4年12月15~16日に出荷
種卵の直近の導入日・頻度等	無	無	無	無
食用卵・種卵の直近の出荷日・頻度等	毎日出荷	毎日出荷	毎日出荷	R4年10月(本社で孵卵)
集卵バーコンベア出口のシャッターの有無、ある場合に手動又は自動、隙間の有無、家きん舎外バーコンベア上のカバーの有無等	コンベア上部に10cm程度の隙間、シャッター等の遮蔽は設置はなし。鶏舎外側からはネズミ返しのような構造になっており、野生動物が侵入しにくい構造	鶏舎外の集卵ベルト全体にカバー有	鶏舎外の集卵ベルトは高所に設けられ、全体がカバーで覆われていたが、ベルト下部には一部隙間が見られた	無
飼料業者(輸送)の直近の立入日・頻度等	週4日程度搬入	飼料工場3社で製造された飼料を2社の運送業者で運搬。 週6日程度搬入	月5~6回搬入	週に2~3回搬入
敷料調達(輸送)頻度	-	-	-	業者からウッドチップを週に3~4回搬入
鶏糞・堆肥の直近の搬出日・頻度	(セミウインドウレス)鶏糞ベルトで運搬し、トラックの荷台に集積。ほぼ毎日堆肥処理施設へ搬出。(開放)鶏舎1階に堆積	鶏糞ベルトで毎週2回、鶏糞集積場に運搬。最終的に農場内の堆肥処理施設に運ばれコンポスト処理。	鶏糞ベルトで運搬し、トラックの荷台に集積。最終的に農場内の堆肥処理施設に運ばれコンポスト処理。	毎日の飼養管理の際に糞尿で汚れた床敷を除去しトラックで堆肥舎へ搬出。堆肥舎で堆肥化。
除糞ベルト出口、ピット等のシャッター、蓋等の有無、隙間の有無等	有(除糞ベルトの鶏舎内開口部は、稼働時以外は木製の板蓋で閉鎖。鶏舎外の排出口は稼働時以外は閉鎖)	無	無	無
死亡鶏出荷、処理の頻度等	農場内焼却炉で毎日処理	農場内の死亡鶏処理装置で処理	堆肥処理施設に運搬、コンポストで鶏糞とともに処理	毎日回収し、ビニール袋に入れて運搬車で運び農場内の焼却施設で処理
作業従事者	7名	32名(社員26名、外国人実習生6名)	5名(社員2名、委託社員1名、パート1名、アルバイト1名)	11名(うちパート5名)
外国人従業員 ○:あり(鶏舎に入る) △:あり(鶏舎に入らない) ×:農場に入らない 海外渡航歴	なし	○	なし	なし
管理獣医師	年に1回程度。直近1か月の来場なし。	管理獣医師あり。直近の来場なし。	無	飼料会社の獣医師。半年に1度。
動物用医薬品	-	医薬品販売業者(R4年10月25日) 農場には入らず事務所まで	-	消毒薬のみ。
その他衛生管理区域への立入り状況	農場北側の私有地(山林)の所有者が、ごくまれに農場内を通過して山林に行くことあり。	家保職員がR5年9月6日立入	-	週に一度、ガソリンスタンド業者が車庫で来場 2か月に1度ほど、家きん舎の床暖房用の燃料として利用しているペレットを搬入するため業者が来場
その他特記事項	-	-	-	-

疫学情報まとめ 広島県<6事例>

	36例目	42例目	49例目	51例目	58例目	63例目
農場情報						
農場所在都道府県	広島県	広島県	広島県	広島県	広島県	広島県
農場所在市町村	世羅町	世羅町	世羅町	世羅町	三次市	世羅町
発生日(疑似患者判定日)	R4年12月16日	R4年12月19日	R4年12月27日	R4年12月30日	R5年1月10日	R5年1月21日
用途	採卵鶏	採卵鶏	採卵鶏	採卵鶏	採卵鶏	育成(採卵鶏)
飼養形態	ケージ飼	ケージ飼	ケージ飼	ケージ飼	ケージ飼	ケージ飼
家きん舎数	2棟(ウインドウレス)	3棟(ウインドウレス)	3棟(開放)	5棟(ウインドウレス3、セミウインドウレス2) ※発生鶏舎はセミウインドウレス	8棟(ウインドウレス)	3棟(ウインドウレス) (うち1棟空舎)
家きん舎・ケージ構造(発生鶏舎)	モニター無 2階建て、グレーチングの床 各階2区画に区分、各区画とも直立4段ケージ4列(2山)、通路3本 7~8羽/ケージ	モニター無 2階建て、グレーチングの床 各階2区画に区分、各区画とも直立4段ケージ4列(2山)、通路3本 6~7羽/ケージ	モニター無、屋根裏無 高床Aライン型4段ケージ4列、通路2本	モニター有、屋根裏無 2階建て、グレーチングの床 直立4段ケージ	モニター有 2階建て 各階直立4段ケージ14列(7山)、通路8列	モニター無、屋根裏無 2階建て、グレーチングの床 各階直立3段ケージ10列(5山)、通路6列
発生鶏舎以外での殺処分前検査陽性	×	×	○(B号)	○(20号)	×(すべて陰性)	-
飼養羽数	約11万羽	約18.7万羽	約12.7万羽	約29万羽	約83.5万羽	約12.8万羽
うち発生鶏舎(通報時日齢)	約3万羽(591日齢)	約3万羽(402日齢)	約1.4万羽(168日齢)	約3万羽(171日齢)	約12万羽(405日齢)	約6万羽(133日齢)
通報時の死亡状況	死亡数の増加。 特定場所での死亡。	まとまって死亡	R4年12月16日、19日、24日:発生状況確認検査陰性 7羽の死亡鶏を確認。周囲のケージで沈鬱個体を確認	死亡数の増加。2階と1階のそれぞれ壁沿いでかたまって死亡、周囲に衰弱個体を確認(2階は1番上の段で衰弱あり)	まとまって死亡	死亡数の増加 かたまって死亡、チアノーゼ確認
発生日前日までの死亡羽数の推移(発生鶏舎)	(3程度)11⇒15⇒47⇒110	(8程度)⇒13⇒9⇒26	(3程度)1⇒1⇒0⇒1⇒7	(3~4)0⇒0⇒6⇒1⇒0⇒78	7⇒18⇒19⇒19⇒20	(2)2⇒0⇒0⇒0⇒6
当該事例検出の契機(通報/検査)	通報	通報	通報	通報	通報	通報
当該事例から3km以内の発生事例(発生日、距離)(当該事例発生日までの事例)	なし	36例目と隣接	36例目及び42例目と隣接	なし	なし	なし
周辺農場検査(発生状況確認検査・清浄性確認検査)、疫学関連家きん飼養農場解除検査、例外協議検査等の採材日	-	R4年12月16日(発生状況確認検査36例目)	R4年12月16日(発生状況確認検査36例目) R4年12月19日(発生状況確認検査42例目)	-	-	-
当該事例病鑑前21日以内の簡易実施日(全鶏舎(全)か病鑑鶏舎のみ(単)かの別)	-	-	-	-	-	-
当該事例通報時の簡易検査結果	生鶏9/11、死鶏1/2	死鶏7/11、生鶏2/2	死鶏7/7、生鶏1/2	死鶏8/11、生鶏2/2	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏8/9、生鶏2/2
当該事例通報時のPCR検査結果	結果13/13	結果11/13	結果9/9	結果13/13	結果13/13	結果11/11
強制排気(発生家きん舎)(開放鶏舎の場合、壁に設置された換気扇からの排気を含む)	有 (鶏舎入口側に設置されたクーリングパッドから排気)	有 (場南東側(入口側)のクーリングパッドから排気し、反対側(奥側)の排気ファン6台(1階につき6台、1区画計12台)で排気)	-	有 (上部モニターから排気)	有り	有 (鶏舎手前側の吸気口と側面のインレットから排気、奥側のファンから排気)
至近のため池等の水場からの距離	約100m	約20m	約150m	約600m	約200m	約30m
周辺状況	・周囲は林 ・周辺には複数のため池あり、ダイサギ、カモ類を確認	・周囲は林 ・周辺には複数のため池あり、カモ類を確認 ・国内36例目に隣接	・山間部に位置、国内36例目、国内42例目に隣接する ・周辺には田畑、ため池あり ・ため池にはカモ類を確認	・山間部(台地)に位置し、周囲は林 ・周辺に貯水池、ため池あり。ため池にてカモ類・サギ数羽を確認。	・山間部(台地)に位置し、周囲は山林に囲まれている。周辺地域には田畑とため池が多い。 ・池に水鳥を複数	・周辺に田畑や観光農園あり。 ・農場の北側(発生鶏舎側)は竹林や雑木林に面していた ・周辺に小規模なため池やダムあり
疫学情報						
生体の直近の導入日・頻度等	系列農場から120日齢程度の大雛を導入 過去21日間なし	系列農場から120日齢程度の大雛を導入 直近の導入はR4年12月8日	系列農場から123日齢の大雛を導入 直近の導入はR4年12月9日	系列農場から導入 直近の導入はR4年11月11日	隣接する系列の育成農場から120日齢の大雛を導入 過去21日間なし(直近はR4年11月4日)	直近はR4年12月中旬に導入
生体の直近の出荷日・頻度等(捕鳥・輸送)	発生の半年前に出荷	直近の出荷はR4年11月15日	直近の出荷はR4年11月30日	11月以降は搬出していない 直近の出荷はR4年10月20日	直近の出荷はR4年12月16日(廃鶏出荷)	直近の出荷はR4年12月8日
種卵の直近の導入日・頻度等	-	-	-	-	-	-
食用卵・種卵の直近の出荷日・頻度等	出荷先:系列のGPセンター 毎日出荷(数回)	出荷先:系列のGPセンター 毎日出荷(数回)	出荷先:系列のGPセンター 毎日出荷(数回)	近隣の系列のGPセンターにインラインで搬入	出荷先:農場内GPセンター 毎日出荷(数回)	-
集卵バーコンベア出口のシャッターの有無、ある場合に手動又は自動、隙間の有無、家きん舎外バーコンベア上のカバーの有無等	有 (屋間に自動運転が停止した際には、シャッターは開いているとのこと。夜間は手動で閉じている)	有 (鶏舎外を通る箇所は上部がカバーで覆われている。鶏舎からの開口部にはシャッターが備えられ、夜間は閉鎖)	鶏舎間を繋ぐ集卵バーコンベアの下にはシャッターが備えられ、夜間は閉鎖	有	有 (コンベアには覆いがあり、バーコンベアシャッター及びコンベア下に設置したネットによる野生動物の侵入防止も実施)	-
飼料業者(輸送)の直近の立入り日・頻度等	ほぼ毎日搬入	ほぼ毎日搬入	ほぼ毎日搬入	ほぼ毎日搬入	ほぼ毎日搬入	週に3回程度搬入
敷料調達(輸送)頻度	-	-	-	-	-	-
鶏糞・堆肥の直近の搬出日・頻度	ほぼ毎日の頻度で自社トラックにより隣接農場の堆肥処理施設へ搬出	ベルトコンベアで、堆肥場に運搬。 堆肥化し、乾燥場へ搬出。	ホイールローダーで回収しダンプで搬出又はバキュームで吸引し搬出	除糞ベルトは各鶏舎で1日おきに運転し、その都度車両(各区域専用)で堆肥舎に運搬	除糞ベルトは、各鶏舎、週に1回程度稼働 場内の堆肥場に運搬し、コンポストで堆肥化	1日1鶏舎ずつ搬出。直近の搬出はR5年1月17日。 近隣農場又は系列農場に併設された堆肥舎に搬出
除糞ベルト出口、ピット等のシャッター、蓋等の有無、隙間の有無等	除糞ベルトの上部はカバーで覆われているが、ベルト出口には蓋はない。ベルト出口下にはトラックがあり、回収周りには防鳥ネットがある。	鶏糞排出口を塞ぐパネルあり	- 国内36例目(広島県1例目)で発生して以降、鶏糞は搬出していない。	除糞ベルトの上部はカバーで覆われているが、ベルト出口には蓋はない。	鶏糞コンベアは外部への開口部がないように建屋で覆われ、搬出用ダンプ置場にも防鳥ネットが設置	除糞ベルトから搬出用コンベアへの投入口は稼働時を除きベニヤ板でフタあり。搬出口は建屋で覆われており、3号鶏舎ではさらにトラック積載場所も建屋で覆われていた
死亡鶏出荷、処理の頻度等	基本、農場内の死鳥処理装置で処理。また、隣接農場の堆肥処理施設へトラックで運搬し、処理する場合もある。	農場内の堆肥処理施設で処理。	毎日回収し、農場敷地東側に設置された死亡鶏処理装置により発酵処理	朝の見回り時に回収、堆肥舎に運んだ後、鶏糞に混ぜられて農場敷地外の共同堆肥場に搬出	死亡鶏は見回り時に回収して鶏舎内のペール缶に一時保管し、除糞コンベア稼働時に鶏糞とともに回収してコンポスト処理	毎日の健康観察時に回収し、ビニール袋に入れた状態で鶏舎内に搬入。鶏糞の搬出時に併せて運搬し、堆肥舎に併設された死鳥処理機に投入
作業従事者	6名	7名	7名	発生エリアは3名(うち飼養管理は2名)、全11名。※非発生エリアとの従業員との共用なし。	91名(鶏舎31名、GP29名、乾燥場11名、技能実習生20名)	5名
外国人従業員 ○:あり(鶏舎に入る) △:あり(鶏舎に入らない) ×:農場に入らない 海外渡航歴	○	なし	なし	なし	○ 過去14日間の海外渡航歴なし	なし
管理獣医師	立入頻度は検案等の必要時のみ。 過去21日間なし	立入頻度は検案等の必要時のみ。 過去21日間なし	立入頻度は検案等の必要時のみ。 過去21日間なし	立入頻度は検案等の必要時のみ。 過去21日間なし	立入頻度は検案等の必要時のみ。 過去21日間なし	立入頻度は検案等の必要時のみ。 過去21日間なし
動物用医薬品	直近の投薬はなし	直近の投薬はなし	直近の投薬はなし	直近の投薬はなし	直近の投薬はなし	動物用医薬品会社R5年1月5日、11日
その他衛生管理区域への立入り状況	浄化槽点検R4年12月8日 ガス業者R4年12月14日 ネズミ駆除R4年12月15日	ガス業者R4年12月8日・12日 電機管理R4年12月12日 ネズミ駆除R4年12月15日(※36例目とは別の人が立入)	電機点検保安協会R4年12月7日 ネズミ駆除R4年12月25日(※36例目、42例目とは別業者)	-	ベルト修理業者R4年12月28日	設備機器会社R5年1月5日
その他特記事項	-	-	飼料添加剤を保管する倉庫及び作業用フォークリフトは、36例目(広島県1例目)の農場と共用していた。なお、36例目発生以降、共用はしていない。	-	-	-

疫学情報まとめ

香川県＜4事例＞

	3例目	14例目	15例目	33例目
農場情報				
農場所在都道府県	香川県	香川県	香川県	香川県
農場所在市町村	観音寺市	観音寺市	観音寺市	三豊市
発生日(疑似患者判定日)	R4年11月1日	R4年11月22日	R4年11月23日	R4年12月11日
用途	採卵鶏	肉用鶏	採卵鶏	採卵鶏
飼養形態	ケージ飼	平飼	ケージ飼	ケージ飼
家きん舎数	3棟(開放×2、ウインドウレス×1) ※発生鶏舎は高床式開放	4鶏舎(開放)	1鶏舎(開放)	3棟6鶏舎(セミウインドウレス)
家きん舎・ケージ構造(発生鶏舎)	モニター有、屋根裏無 高床式 直立4段ケージ6列 2羽/ケージ 通路3列	モニター無、屋根裏無	モニター有、屋根裏無 1階建て低床、2区画に区分 各区画ともAライン型3段ケージ6列、 通路が3列	モニター無、屋根裏無 2階建て 各階直立4段ケージ8列(4山)、通路 5列
発生鶏舎以外での殺処分前検査陽性	×	○	—(発生鶏舎のみ採材)	—(発生鶏舎のみ採材)
飼養羽数	約4.2万羽 → 約4万羽	約2.5万羽	約1.4万羽	約8.4万羽 → 約8万羽
うち発生鶏舎(通報時日齢)	約1.1万羽(560日齢)	約6,000羽(55日齢)	約7,000羽(302日齢)(1区画分)	約2.1万羽(249日齢)
通報時の死亡状況	鶏舎奥側、上段ケージで死亡数増加	散在	1日当たりの死亡羽数が0~2羽で推移していたが、4羽へ増加、そのうち3羽が鶏舎入口付近の隣接する4ケージ中3ケージで確認	死亡数の増加 鶏舎入口から見て3列目及び4列目の通路側の中央付近に死亡鶏を多く確認
発生日前日までの死亡羽数の推移(発生鶏舎)	(1~5)⇒50	(0~5)⇒9⇒64	(0~2)⇒4	(0~4)⇒15⇒31
当該事例検出の契機(通報/検査)	通報	通報	通報	通報
当該事例から3km以内の発生事例(発生日、距離)(当該事例発生日までの事例)	なし	3例目(R4年11月1日、2km)	3例目(R4年11月1日、1.3km) 14例目(R4年11月22日、3km)	なし
周辺農場検査(発生状況確認検査・清浄性確認検査)、疫学関連家きん飼養農場解除検査、例外協議検査等の採材日	—	R4年11月1日(発生状況確認検査3例目) R4年11月15日(清浄性確認検査3例目)	R4年11月1日(発生状況確認検査3例目) R4年11月15日(清浄性確認検査3例目)	—
当該事例病鑑前21日以内の簡易実施日(全鶏舎(全)か病鑑鶏舎のみ(単)かの別)	—	R4年11月15日、2/4鶏舎(単) (1発生鶏舎は実施せず)	—	—
当該事例通報時の簡易検査結果	死鶏11/11、生鶏0/2	死鶏11/11、生鶏0/2	死鶏3/4、生鶏0/2	死鶏11/11、生鶏0/2
当該事例通報時のPCR検査結果	死鶏5/5	死鶏5/5	死鶏3/4	死鶏11/11、生鶏2/2
強制排気(発生家きん舎)(開放鶏舎の場合、壁に設置された換気扇からの排気を含む)	なし	なし	なし	なし (発生時期は換気扇停止中)
至近のため池等の水場からの距離	ため池が農場に隣接	50m	500m	調整池が農場に隣接
周辺状況	・平野部に位置し、周囲は田畑 ・周囲に複数のため池 ・農場隣接のため池にカモ類75羽、オオバン11羽、周辺のため池にホンハジロ多数を確認	・平野部の川州上、周囲は田畑 ・近隣に複数のため池 ・至近のため池にカモ類約50羽を確認 ・農場から1kmのため池(疫学関連農場に隣接)で数羽のカモ類とサギ類を確認、発生15日前に当該池の死亡野鳥からHPAIウイルスを検出	・平野部に位置し、周囲は田畑 ・近隣に複数のため池 ・周辺の川では、カモ類をよく見かけるとのこと	・周囲は雑木林 ・農場隣接の調整池にカモ類2羽を確認
疫学情報				
生体の直近の導入日・頻度等	1成鶏舎につき、6割を初生で導入・育成し、成鶏舎移動時に残り4割を大雞(約120日齢)導入 過去21日間なし(直近の導入はR4年9月24日(初生))	初生を導入 過去21日間なし(直近の導入はR4年10月4日)	124日齢で導入 過去21日間なし(直近の導入はR4年5月28日)	105日齢で導入 過去21日間なし(直近の導入はR4年7月19日)
生体の直近の出荷日・頻度等(捕鳥・輸送)	出荷先: 産鶏業者 捕鳥・輸送: 産鶏業者が実施 出荷日齢: 約660日齢 過去21日間なし(直近の出荷はR4年8月25日頃)	出荷先: 食鳥処理場 捕鳥・輸送: 業者が実施 出荷日齢: 約47日齢 過去21日間なし(直近の出荷はR4年9月8日頃)	出荷先: 産鶏業者 捕鳥・輸送: 産鶏業者が実施 出荷日齢: 約670日齢 過去21日間なし(直近の出荷はR4年4月28日頃)	出荷先: 産鶏業者 捕鳥・輸送: 産鶏業者が実施 出荷日齢: 約670日齢 直近は発生約2週間前に実施
種卵の直近の導入日・頻度等	—	—	—	—
食用卵・種卵の直近の出荷日・頻度等	出荷先: GPセンター 輸送: 集卵業者が実施 毎日出荷	—	出荷先: GPセンター 輸送: 集卵業者が実施 毎日出荷	出荷先: GPセンター 輸送: 集卵業者が実施 毎日出荷
集卵バーコンベア出口のシャッターの有無、ある場合に手動又は自動、隙間の有無、家きん舎外バーコンベア上のカバーの有無等	—(集卵バーコンベア設置なし。卵は従業員によってラックに積まれた後、集卵業者により回収)	—	—(集卵バーコンベア設置なし。卵は従業員によってラックに積まれた後、集卵業者により回収)	—(集卵バーコンベアは地下へ入り屋外に出ることなく集卵室へ入る)
飼料業者(輸送)の直近の立入り・頻度等	購入飼料会社は1社 直近はR4年10月29日 ほぼ毎日搬入	購入飼料会社は1社 直近はR4年11月19日 ほぼ毎日搬入	購入飼料会社は1社 直近はR4年11月19日 ほぼ毎日搬入	購入飼料会社は2社 直近はR4年12月10日 ほぼ毎日搬入
敷料調達(輸送)頻度	—	入雞前に全量を購入し鶏舎に搬入。 入雞中に追加や搬出はなし。	—	—
鶏糞・堆肥の直近の搬出日・頻度	2ヶ月に1度、重機で除去し、処理施設で搬出。 過去21日間なし	オールアウト後に除糞 過去21日間なし	年に2~3回、重機で除去し、一時保管場所にて保管後、系列会社の堆肥処理場に搬出。 過去21日間なし	除糞ベルトを毎日1時間に1回程度稼働して鶏糞を乾燥場に移動。堆肥化後、毎週業者に搬出。 直近は発生5日前に搬出
除糞ベルト出口、ピット等のシャッター、蓋等の有無、隙間の有無等	—(高床式鶏舎)	—	—(低床式鶏舎)	シャッター有 (鶏除糞ベルト稼働時のみ開口部が開く構造)
死亡鶏出荷、処理の頻度等	冷蔵庫で一時保管後、週1回化製業者が回収 直近はR4年10月25日	系列農場前の死亡鶏一時保管場所に週2回搬出	鶏糞一時保管場所にある死亡鶏処理装置まで毎日運搬し処理	舎内に一時的に保管し、週2回農場内にある焼却炉で焼却。焼却後の灰は鶏糞に混合
作業従事者	6名(4名: 飼養管理、2名: 集卵(パート))	1名(疫学関連農場も同一飼養衛生管理者)	6名(1名: 農場主、従業員(正規: 1名、パート: 4名(農場主と正規の2名は、疫学関連2農場も飼養管理))	7人(1名: 農場主、4名: 従業員、2名: 外国人技能実習生) ※4名(農場主、従業員1名、外国人技能実習生2名): 飼養管理、3名(従業員): 集卵、事務
外国人従業員 ○: あり(鶏舎に入る) △: あり(鶏舎に入らない) ×: 農場に入らない 海外渡航歴	—	—	—	○ (飼養管理で担当の鶏舎に立入) 過去半年間の海外渡航歴なし
管理獣医師	管理獣医師なし	系列会社委託の獣医師 過去21日間立入なし	管理獣医師なし	管理獣医師あり 過去21日間立入なし
動物用医薬品	販売代理店(過去21日間立入なし)	販売代理店(直近はR4年11月19日)	販売代理店(過去21日間立入なし)	販売代理店(過去21日間立入なし)
その他衛生管理区域への立入り状況	—	ガス業者(直近はR4年11月16日)	—	機械メンテナンス業者(過去21日間立入なし)
その他特記事項	—	—	—	—

疫学情報まとめ

福岡県＜4事例＞

	40例目	48例目	54例目	77例目
農場情報				
農場所在都道府県	福岡県	福岡県	福岡県	福岡県
農場所在市町村	糸島市	糸島市	古賀市	福岡市
発生日(疑似患者判定日)	R4年12月19日	R4年12月26日	R5年1月3日	R5年3月2日
用途	採卵鶏	肉用鶏	だちよう(エミュー)	採卵鶏
飼養形態	ケージ飼	平飼	平飼	ケージ飼
家きん舎数	8棟(開放、うち1棟空舎)	3棟(開放)	開放・屋外	3棟(ウインドウレス、計6鶏舎(内部で2区画に分割))
家きん舎・ケージ構造(発生鶏舎)	モニター有、屋根裏無 低床式 直立2段ケージ4列、通路2本 2羽/ケージ	モニター無、屋根裏無	・休耕田に足場部材等を利用して組み立てた鳥舎 ・全面に防鳥ネットが張られ、地面は土(敷料なし)	モニター無、屋根裏有(棟で共有) 2階建て、グレーチングの床 各鶏舎とも各階直立4段ケージ6列(3山)、通路4本 6~7羽/ケージ
発生鶏舎以外での殺処分前検査陽性	○(A~D棟) すべての棟つながっている	×	○(中舎、上舎、カラスで陽性)	○(2、5、6号鶏舎で陽性)
飼養羽数	約5.4万	約3.5万羽	約400羽	約24.3万羽
うち発生鶏舎(通報時日齢)	A棟0.9万羽、B棟0.9万羽(35、71、75週齢)	約1.2万羽(16日齢)	不明	約4.7万羽(617日齢)
通報時の死亡状況	死亡数の増加 (死亡鶏は鶏舎北側の出入り口付近に集中)	死亡数の増加 散在	平時は死亡個体が認められることはないが、死亡が複数確認	死亡数の増加
発生日前日までの死亡羽数の推移(発生鶏舎)	(2~3)⇒約70⇒約30⇒約90	6⇒8⇒4⇒8⇒13⇒12⇒19	(0)⇒11⇒15	(10~20)⇒123⇒150以上
当該事例検出の契機(通報/検査)	通報	通報	通報	通報
当該事例から3km以内の発生事例(発生日、距離)(当該事例発生日までの事例)	無	40例目	無	無
周辺農場検査(発生状況確認検査・清浄性確認検査)、疫学関連家きん飼養農場解除検査、例外協議検査等の採材日	-	R4年12月19日(発生状況確認検査40例目)	-	-
当該事例病鑑前21日以内の簡易実施日(全鶏舎(全)か病鑑鶏舎のみ(単)かの別)	-	-	-	-
当該事例通報時の簡易検査結果	死鶏9/11、生鶏0/2	死鶏10/11、生鶏1/2	死鶏7/11	死鶏11/11、生鶏1/2
当該事例通報時のPCR検査結果	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏9/11、生鶏1/2	死鶏10/11	死鶏11/11、生鶏1/2
強制排気(発生家きん舎)(開放鶏舎の場合、壁に設置された換気扇からの排気を含む)	無	無	無	冬季は稼働せず
至近のため池等の水場からの距離	約100m	約300m	約500m	約250m
周辺状況	・東西は尾根を挟んでゴルフ場の敷地、南側の入口周辺は田畑 ・農場に接するゴルフ場には複数の池が存在。池にはカモを確認	・竹林や雑木林に隣接する丘陵地に位置していた ・周辺にはカラスやイノシシが多く生息 ・堆肥舎でカラス1羽が死亡しており、HPAI陽性	・丘陵地の谷間にある川沿いに位置。周囲はミカン畑等 ・農場内の死亡カラス3羽でHPAI陽性	・農場の東側斜面は約250mで海岸、西側は緩やかな斜面に水田、畑、人家がある ・農場周辺に複数のため池
疫学情報				
生体の直近の導入日・頻度等	系列農場から0日齢で導入。過去21日間なし	系列農場から0日齢で導入。直近はR4年12月12日	自家増殖(当該農場で産卵された卵を本社にある孵化場で孵化させ育雛)	過去21日間なし(直近はR4年11月15日)
生体の直近の出荷日・頻度等(捕鳥・輸送)	550日齢 直近はR4年12月1日	直近の出荷はR4年11月3日	過去21日間なし(直近はR4年8月25日)	720日齢 直近の出荷はR5年2月8日
種卵の直近の導入日・頻度等	-	-	-	-
食用卵・種卵の直近の出荷日・頻度等	毎日出荷	-	過去21日間なし(直近はR4年11月30日)	農場内GPセンター
集卵バーコンベア出口のシャッターの有無、ある場合に手動又は自動、隙間の有無、家きん舎外バーコンベア上のカバーの有無等	集卵ベルトなし(手作業)	-	-	無(鶏舎と外部の境界部分には設けられていない)
飼料業者(輸送)の直近の立入り日・頻度等	飼料タンクは鶏舎から離れた農場入口にあり、飼料搬入業者は鶏舎付近には立ち寄らない	搬入は多くて週に2回程度(直近はR4年12月24日)	本社の資材置場で調整混合したものを車で農場倉庫(スチール製物置、施設可能)に毎日搬入	ほぼ毎日来場(直近はR5年2月28日)
敷料調達(輸送)頻度	-	外部からおがくずを購入	定期的に土を搬入	-
鶏糞・堆肥の直近の搬出日・頻度	除糞作業は約150日間隔で実施。A棟奥に集めコンベアで直接、堆肥舎へ搬出 直近の搬出は通報の20日程度前	オールアウトの際に1/3~1/2の量を堆肥舎に移動	-	4日に1回程度の頻度で除糞。除糞ベルトにより鶏舎外に搬出され、鶏糞専用のダンプカーで堆肥舎へ運搬。運搬作業は各鶏舎の飼養管理担当者が実施。 製品の搬出先は3社で、直近の搬出はR5年2月22日
除糞ベルト出口、ピット等のシャッター、蓋等の有無、隙間の有無等	蓋あり(手動)	-	-	有り
死亡鶏出荷、処理の頻度等	まとめて回収し、当日分の死亡鶏はその日に農場内の焼却炉で焼却	毎日回収し、農場敷地東側に設置された死亡鶏処理装置により発酵処理	過去21日間なし(直近は10月以前)	衛生管理区域内にある死亡鶏冷蔵保管庫に搬入。1か月に1回程度の頻度で外部業者が回収。直近はR5年1月26日
作業従事者	6名	2名	1名	5名
外国人従業員 ○:あり(鶏舎に入る) △:あり(鶏舎に入らない) ×:農場に入らない 海外渡航歴	なし	なし	なし	なし
管理獣医師	管理獣医師なし	管理獣医師あり 遠方にいるため最近の治療歴や訪問歴は全くなし	-	診療行為(直近はR5年2月28日)
動物用医薬品	ND・IB混合ワクチン(24、54日齢) 6種混合ワクチン(90日齢)	販売代理店(直近はR4年12月8日) NDワクチン(12日齢)	-	ND・IB混合ワクチン(11日齢) NDワクチン(29日齢) IBワクチン(56日齢) 6種混合ワクチン(92日齢)
その他衛生管理区域への立入り状況	-	ガス業者(R4年12月23日)	-	電気工事業者(R5年2月24日) 警備会社(R5年2月15日) 清掃業者(R5年2月16日) 小売業者(R5年2月20日) 集配業者(R5年2月13日)
その他特記事項	-	-	-	-

疫学情報まとめ 宮崎県<3事例>

	12例目	44例目	57例目
農場情報			
農場所在都道府県	宮崎県	宮崎県	宮崎県
農場所在市町村	新富町	日向市	川南町
発生日(疑似患者判定日)	R4年11月20日	R4年12月21日	R5年1月10日
用途	採卵鶏	肉用鶏	採卵鶏
飼養形態	ケージ飼	平飼	ケージ飼
家さん舎数	1棟(ウインドウレス) ※内部は1・2階合わせて壁で区切られた縦4区画	4棟(開放4棟)	5棟(ウインドウレス)
家さん舎・ケージ構造(発生鶏舎)	モニター無、屋根裏無 2階建て、グレーチングの床 各階4段ケージ8列(4山)、通路5本	モニター無、屋根裏無	モニター有、屋根裏有 高床式 A型4段ケージ6列
発生鶏舎以外での殺処分前検査陽性	△(鶏舎外4HA)	×	×
飼養羽数	約16万羽	約5万羽	約10万羽
うち発生鶏舎(通報時日齢)	約4万羽(260日齢※) ※1鶏舎16万羽が縦4区画に分かれており日齢が異なる	約2万羽(42日齢)	約2万羽(221日齢)
通報時の死亡状況	6羽が2階1ケージでまとまって死亡、隣接ケージ2羽が衰弱	死亡数の増加 散在	死亡数の増加 まとまって死亡
発生日前日までの死亡羽数の推移(発生鶏舎)	(3程度)⇒4⇒4⇒4⇒6⇒25	(7程度)⇒5⇒5⇒3⇒10⇒43	(2程度)⇒0⇒2⇒8⇒10⇒32
当該事例検出の契機(通報/検査)	通報	通報	通報
当該事例から3km以内の発生事例(発生日、距離)(当該事例発生日までの事例)	無	無	無
周辺農場検査(発生状況確認検査・清浄性確認検査)、疫学関連家さん飼養農場解除検査、例外協議検査等の採材日	-	-	-
当該事例病鑑前21日以内の簡易実施日(全鶏舎(全)か病鑑鶏舎のみ(単)かの別)	-	-	-
当該事例通報時の簡易検査結果	死鶏10/11、生鶏1/2	死鶏9/11、生鶏0/2	死鶏11/11、生鶏2/2
当該事例通報時のPCR検査結果	死鶏9/9、生鶏1/1	死鶏10/11、生鶏0/2	死鶏11/11、生鶏2/2
強制排気(発生家さん舎)(開放鶏舎の場合、壁に設置された換気扇からの排気を含む)	有 鶏舎は、入口側(集卵棟側)の壁面に吸気口、奥側(堆肥舎側)の壁面に排気ファンが設置され、トンネル換気が自動制御で行われている。	有	有るが冬季は使用せず シャッター有
至近のため池等の水場からの距離	350m	約2km	約2.5km
周辺状況	・平野部に位置し、周囲は水田、農地 ・農場周辺の河川の農場から350m～1kmの4地点でカモ類1600羽 ・農場から2kmの2つのため池でカモ類220羽	・農場は高台に位置し、周囲に雑木林等あり。農場裏手の斜面上には別農場が存在 ・農場から約2.5kmの河川において、カモ類確認	・平野部にあり、一般道路を挟んで肉用牛農場に隣接 ・周辺は牧草地となっており、サイレージを生産 ・周辺に鶏糞を利用したバイオマス発電所があり、多くのカラスを確認
疫学情報			
生体の直近の導入日・頻度等	120日齢程度 R4年10月25～27日に導入	直近の導入はR4年11月8日	120日齢程度 直近の導入はR4年2月
生体の直近の出荷日・頻度等(捕鳥・輸送)	過去21日間なし	出荷先:系列食鳥処理場 捕鳥・輸送:外注 直近はR4年12月27日(出荷時49日齢)	530～540日齢 直近の出荷はR4年11月18日
種卵の直近の導入日・頻度等	-	-	-
食用卵・種卵の直近の出荷日・頻度等	・業務用として出荷 ・一部は包装し直売所で販売。ほぼ、毎日出荷	-	系列GPセンターに毎日出荷。
集卵バーコンベア出口のシャッターの有無、ある場合に手動又は自動、隙間の有無、家さん舎外バーコンベア上のカバーの有無等	鶏舎から集卵棟までを接続する集卵用バーコンベアの上部にはカバーが設置あり、下部にはなし。また、鶏舎壁とバーコンベアの接続部分は、下部に隙間あり	-	鶏舎から集卵棟までを接続する集卵用バーコンベアにはカバーが設置あり、下部にはネットあり
飼料業者(輸送)の直近の立入り日・頻度等	日、月を除く火曜日から土曜日まで毎日購入。飼養衛生管理区域外からタンクに飼料を投入。	3日に1回飼料搬入があり、直近の搬入はR4年12月19日。	直近の立入りはR5年1月8日
敷料調達(輸送)頻度	-	直近の搬入はR4年12月19日	-
鶏糞・堆肥の直近の搬出日・頻度	鶏糞ベルトで、鶏舎横の堆肥舎に運搬し、堆肥化処理。	オールイン・オールアウト後に除糞や洗浄消毒を実施	送風機で吸引した空気をケージの各列の間に設置したパイプから吹き出すことにより乾燥。除糞ベルトを稼働させて回収、堆肥置き場に運搬。直近のベルト稼働
除糞ベルト出口、ピット等のシャッター、蓋等の有無、隙間の有無等	シャッターや蓋等はなし	-	有 (稼働時以外は金属製柵で開口部を封鎖)
死亡鶏出荷、処理の頻度等	毎日回収し、カゴに入れて回収まで農場敷地入り口に保管(県確認中)。週5回、化製業者が回収	毎朝巡回時に回収。農場出入口外のペールに保管し、毎日、死亡鳥回収業者が車で収集し、化製処理場へ運搬	朝の健康観察時に回収し、各鶏舎外に備え付けの死亡鶏保管箱(各鶏舎用)に保管。まとめて回収場所の保管箱に移し、回収業者が農場外から毎日回収し、に搬出
作業従事者	8名 農場主ほか、4名:鶏舎担当、3名:集卵棟担当	7名	6名
外国人従業員 ○:あり(鶏舎に入る) △:あり(鶏舎に入らない) ×:農場に入らない 海外渡航歴	なし	なし	なし
管理獣医師	個人獣医師と契約しているが、過去1年間立ち入りはなし	系列の管理獣医師がいるが、異状時のみの立入りであり、直近の立入りは無いとのこと。	管理獣医師あり。 直近の訪問はR5年1月6日
動物用医薬品	R4年11月17日衛生管理区域外にて受け取り	R4年12月10日にビタミン剤納品	該当なし
その他衛生管理区域への立入り状況	ガス、電気業者の立入りは区域外	-	電気業者(R4年12月22日)
その他特記事項	-	-	-

疫学情報まとめ

	32例目	34例目	39例目	41例目	45例目	74例目
農場情報						
農場所在都道府県	鹿児島県	鹿児島県	鹿児島県	鹿児島県	鹿児島県	鹿児島県
農場所在市町村	出水市	出水市	南九州市	阿久根市	阿久根市	鹿屋市
発生日(疑似患畜判定日)	R4年12月9日	R4年12月11日	R4年12月18日	R4年12月19日	R4年12月21日	R5年2月3日
用途	採卵鶏	採卵鶏	採卵鶏	採卵鶏	肉用鶏	肉用種鶏
飼養形態	ケージ飼	ケージ飼	ケージ飼	ケージ飼	平飼	平飼
家さん舎数	3鶏舎(ウインドウレス)	1鶏舎(開放型)	4鶏舎(開放型3棟、セミウインドウレス1棟) ※発生鶏舎は開放	2鶏舎(開放型1棟、セミウインドウレス1棟(空舎))	6鶏舎(セミウインドウレス)	5棟(ウインドウレス)
家さん舎・ケージ構造(発生鶏舎)	モニター無 2階建て 各階直立4段8列(4山)、通路5本 10羽/ケージ	モニター有、天井裏無 1階建て高床式 A型4段ケージ8列(4山)、通路5本 3羽/ケージ	モニター有、天井裏無 高床式開放 直立2段ケージ8列(4山)、通路5本 2羽/ケージ	モニター有、天井裏無 高床式開放 A型4段ケージ8列(4山)、通路5本 2羽/ケージ	モニター無、天井裏無	モニター無、天井裏無 各鶏舎は5区画に分割
発生鶏舎以外での殺処分前検査陽性	×(他鶏舎で実施せず)	×(他鶏舎で実施せず)	×(他鶏舎で実施せず)	×(他鶏舎で実施せず)	×(他鶏舎で実施せず)	×(他鶏舎で実施せず)
飼養羽数	約22万羽	約2.2万羽	約3.6万羽	約7万羽	約3.7万羽	約2.6万羽
うち発生鶏舎(通報時日齢)	約7.4万羽(609日齢)	約2.1万羽(387日齢)	約8,600羽(260日齢)	約7万羽(259日齢)	約6,100羽(28日齢)	約5,000羽(89日齢)
通報時の死亡状況	同一ケージ内の複数羽の死亡、同居鶏に沈鬱を確認	鶏舎入口からみて一番奥の列の入口からやや近いケージで死亡数の増加。 かたまって死亡、衰弱も確認	沈鬱症状、死亡数の増加 鶏舎入口付近で固まって死亡	鶏舎入口から一番奥の列中央付近で最上段とその下の段の6ケージで固まって死亡。 周囲で沈鬱な異常鶏を確認。	通報日の朝8時、発生鶏舎奥の中央付近で固まって死亡。11時に同一箇所死亡数が増加。 周囲に衰弱個体あり	通報5日前から1区画で死亡数が増加、徐々に隣接区画でも死亡数が増加。 通報日、1区画で40~50羽が固まって死亡。
発生日前日までの死亡羽数の推移(発生鶏舎)	(6~11)⇒14⇒10⇒18⇒14⇒28	(1~2)⇒2⇒1⇒1⇒3⇒11	(3~15)⇒30⇒21⇒29⇒47⇒37	(2~19)⇒5⇒6⇒5⇒2⇒31	(0~4)⇒1⇒2⇒3⇒2⇒12	(0~5)⇒27⇒35⇒125⇒113⇒368
当該事例検出の契機(通報/検査)	通報	通報	通報	通報	通報	通報
当該事例から3km以内の発生事例(発生日、距離) (当該事例発生日までの事例)	17例目(2.2km)、19例目(0.5km)、23例目(2.0km)、24例目(2.3km)、27例目(1.4km)、30例目(1.5km)	17例目(1.6km)、17関連(2.6km)、19例目(0.8km)、23例目(1.0km)、24例目(1.5km)、27例目(0.3km)、30例目(0.4km)、32例目(1.3km)	なし	なし	27例目(2.7km)、41例目(0.8km)	なし
周辺農場検査(発生状況確認検査・清浄性確認検査)・疫学関連家さん飼養農場解除検査、例外協議検査等の採材日	R4年11月25日(発生状況確認検査17例目)	R4年11月25日(発生状況確認検査17例目)	-	-	R4年12月7日(発生状況確認検査27例目)	-
当該事例病鑑前21日以内の簡易実施日(全鶏舎(全)か病鑑鶏舎のみ(単)かの別)	-	-	-	-	-	-
当該事例通報時の簡易検査結果	死鶏4/5、生鶏1/2	死鶏6/6、生鶏2/2	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏7/11、生鶏2/2	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏10/11、生鶏2/2
当該事例通報時のPCR検査結果	6/7	8/8	13/13	13/13	13/13	13/13
強制排気(発生家さん舎)開放鶏舎の場合、壁に設置された換気扇からの排気を含む)	有 (通常、鶏舎側面のインレットから吸気し、換気扇から排気を行っていたが、通報前日から吸気口を閉じ、2階のクーリングパットのみから吸気していた。)	無 (基本的には自然排気。カーテンを手動閉閉。ファンは23度を超えると稼働するが冬季は稼働せず)	有 (温度調節は鶏舎側面のカーテン開閉や夏場は換気扇を使用)	有 (主にモニター屋根のロールカーテンの開放により外気を引き込んで吸気、夏季は鶏舎内のファンを稼働させ、鶏舎奥側に設置された排気扇から排気)	有 (鶏舎入口付近の吸気口から外気を取り込み、鶏舎奥の壁に設置された換気扇から排気)	有 (鶏舎北側に入気口、南側に換気扇のついた排気口がある)
至近のため池等の水場からの距離	約1km	約700m	約100m	約500m	約500m	約0.4km
周辺状況	・丘陵地に位置し、周辺に林あり。 ・農場周囲ではカラスをよく見かける。農場上空ではソルの飛来を見かける	・竹林、雑木林、みかん畑に囲まれている。	・森林、茶畑、ソーラーパネルに囲まれている。	・周辺は畑地が広がっている。 ・農場南側は流れがある。 ・農場から約500m離れた位置にため池がある。	・農場周辺は藪で囲まれている ・周辺にため池あり	・平地に位置し、農場南側及び西側は畑に囲まれ、北側及び東側は森林(森林の奥は断崖)に囲まれている。

疫学情報						
生体の直近の導入日・頻度等	系列農場から大雛(120日齢程度)を導入 最後の導入はR3年11月(発生鶏舎ではR3年8月)	系列農場から大雛(120日齢程度)を導入 直近ではR4年3月に導入	102日齢程度 直近の導入はR4年11月20日	系列農場から大雛(110~120日齢程度)を導入 直近ではR4年7月に導入	系列農場から0日齢の雛を導入 直近ではR4年11月22日	直近の導入はR4年11月5日
生体の直近の出荷日・頻度等(捕鳥・輸送)	690日齢頃で系列食品工場に出荷 直近の出荷はR3年9月(発生鶏舎ではR3年6月)	690日齢頃で系列食品工場に出荷 強制換羽有(490日齢頃) 直近の出荷はR4年1月	600日齢頃で出荷 直近の出荷はR4年9月	系列食品工場に出荷 直近の出荷はR4年11月	600日齢で系列食品工場に出荷 直近の出荷はR4年10月22日、24日	系列食品工場に126日齢で出荷 直近の出荷はR4年10月15日
種卵の直近の導入日・頻度等	-	-	-	-	-	なし
食用卵・種卵の直近の出荷日・頻度等	鶏舎からはバーコン 系列会社に毎日出荷	鶏舎からはバーコン 系列会社に毎日出荷	毎日出荷	鶏舎からはバーコン 系列会社に毎日出荷	-	-
集卵バーコン出口のシャッターの有無、ある場合に手動又は自動、隙間の有無、家さん舎外バーコン上のカバーの有無等	有 (集卵ベルトの開口部は、稼働時以外はシャッターを閉めている)	無 (集卵バーコンは防鳥ネットで覆われている)	無	無	-	-
飼料業者(輸送)の直近の立入り・頻度等	系列の飼料会社から搬入 日曜以外毎日搬入 直近の搬入はR4年12月8日	系列の飼料会社から搬入 週2回搬入 直近の搬入はR4年12月9日	3日に1回搬入 直近の搬入はR4年12月14日	系列の飼料会社が1日1農場のみを訪問し、飼料タンクへの補給は3日に1回程度 直近の補給はR4年12月17日	雛:2~3週間に1回 1ヶ月齢:1週間に1回 出荷前:5日に1回 直近の搬入はR4年12月16日	搬入は2日~4日に1回 直近の搬入はR5年2月1日
敷料調達(輸送)頻度	-	-	-	-	入雛前に敷料導入	入雛前のみ納入(飼育期間中の追加なし) 直近はR4年11月初旬
鶏糞・堆肥の直近の搬出日・頻度	鶏糞は乾燥させ系列農場(国内19例目)で焼却するものと農場内で堆肥化するものがある。 除糞ベルトは4日に1回稼働 直近の搬出はR4年11月25日	月1回農場内の堆肥処理施設へ搬出し堆肥化(直近の搬出は3週間前)製品として農家などに販売(直近の搬出は3日前)	3年前から搬出していない。	鶏糞は2日に1回程度、農場専用のショベルローダーで敷地内の堆肥場に運びこみ、1次発酵、2次発酵を経て堆肥処理。直近の搬出はR4年12月17日	オールアウト時に運搬、出水市内の共同施設で堆肥化	オールアウト時にのみ搬出。鶏糞回収業者の堆肥場で堆肥化。直近の搬出はR4年10月中旬。
集卵バーコンペア出口のシャッターの有無、ある場合に手動又は自動、隙間の有無、家さん舎外バーコン上のカバーの有無等	除糞ベルトは地下に設置 (鶏舎内の開口部は、稼働時以外はコンパネで塞がれていた)	発生農場用の堆肥舎へ搬出して堆肥化。完熟堆肥の一部を関連農場の堆肥舎、大部分を他農場との共用施設に搬出(月1回)	なし(鶏糞は3年前から鶏舎下層部分に堆積)	なし	なし	なし
死亡鶏出荷、処理の頻度等	系列農場(国内19例目)の死体保管庫に保管され、処理業者によって処理。(1日1回) 19例目発生後は、農場内のコンポストに投入。	軽トラックに積載した蓋つき容器に一時的保管。その後、共同死鳥置場に搬出。 直近の搬出はR4年11月30日	死亡鶏は、鶏舎裏手にある旧堆肥舎で処理していた	死亡鶏は鶏舎担当者が毎日回収し、鶏舎外のダストシュートを介して堆肥場作業者が敷地内の堆肥場に搬入し、堆肥処理	3日に1回の頻度で農場内作業が終了した後、農場から10kmほどの距離にある共同保管庫に輸送(直近の輸送はR4年12月28日)	毎日鶏舎から回収し、衛生管理区域境界線上のポリバケツに投入。 翌朝、処理業者がほぼ毎日回収。(直近の回収はR5年1月30日、1月31日は従業員が作業終了後処理業者へ運搬)
作業従事者	6名	68名	5名	10名	2名	4名(飼養管理担当)
外国人従業員 ○:あり(鶏舎に入る) △:あり(鶏舎に入らない) ×:農場に入らない 海外渡航歴	○	なし	なし	なし	なし	なし
管理獣医師	系列の管理獣医師あり 直近1か月以内の訪問なし	系列の管理獣医師あり 最近の訪問はなし	管理獣医師あり。鶏舎には入らず、ワクチンプログラムの相談程度。	管理獣医師あり。 当該ロットの入雛後訪問なし。	管理獣医師あり。 ロット入るたびに検査、月1程度	管理獣医師あり R5年1月30日、31日、2月1日に訪問
動物用医薬品	-	-	-	-	ワクチンプログラムに従いワクチン接種	抗生剤投与、ワクチン接種あり
その他衛生管理区域への立入り状況	-	ガス、資材、飼料関係業者	-	直近2週間以内に、電気工事関係者立ち入り	ガス会社R4年12月7日、15日	R5年1月24~27日に系列会社の従業員(飼養管理者とは別)6~10名がワクチン接種のため立ち入り
その他特記事項	-	-	衛生管理区域と鶏舎の間の作業着及び長靴の区別なく、鶏舎に入る際の手指消毒は行っていない	農場敷地内の至る所で非常に多数のハエが認められた。	-	-

疫学情報まとめ その他発生県<18事例>

	8例目	9例目	16例目	20例目	21例目	22例目	25例目
農場情報							
農場所在都道府県	和歌山県	兵庫県	宮城県	福島県	和歌山県	鳥取県	愛知県
農場所在市町村	白浜町	たつの市	気仙沼市	伊達市	和歌山市	鳥取市	豊橋市
発生日(疑似患者判定日)	R4年11月11日	R4年11月13日	R4年11月23日	R4年11月29日	R4年11月30日	R4年12月1日	R4年12月5日
用途	展示用あひる等	採卵鶏	肉用鶏	肉用鶏	採卵鶏 ※肉用鶏も飼養	採卵鶏	採卵鶏
飼養形態	あひる:開放(日中は屋外、夜は飼養舎。R4年11月2日以降隔離舎で飼養)	ケージ飼	平飼	平飼	平飼	ケージ飼	ケージ飼
家きん舎数	あひる:1棟(網つきの飼養舎(ヤギ舎)。R4年11月2日以降、鳥フルの発生を受け、予防的に隔離)	2棟(高床式開放1棟(成鶏舎)、低床式開放1棟(大鶏舎))	3棟(開放)	2棟(セミインドウレス)	20棟(開放15棟、インドウレス育種舎5棟)。発生時は開放12、インドウレス4で飼養。 ※発生鶏舎は開放	6棟(セミインドウレス) (各鶏舎の内部は通路でつながっていた)	8棟(セミインドウレス)
家きん舎・ケージ構造(発生鶏舎)	窓のない飼養舎	モニター有 ひな段型4段ケージ14列(9山)、通路7本 2羽/ケージ	モニター無、屋根裏有	モニター無、屋根裏有	モニター無(※互い違いの屋根)、屋根裏無	モニター有 1階建て 直立4段ケージ8列(4山)、通路5本 11羽程度/ケージ	モニター無 1階建て 直立6段ケージ8列(4山)、通路5本
発生鶏舎以外での殺処分前検査陽性	×	×	×	×	○	—	○(1号)
飼養羽数	63羽	約4.4万羽	約2.1万羽	約1.5万羽	約4.3万羽	約11万羽	約31万羽
うち発生鶏舎(通報時年齢)	あひる(がちょう含む):30羽(年齢不明)	約2万羽(約200日齢)	約8,000羽(42日齢)	約0.6万羽(62日齢)	約0.3万羽(雌201日齢、雄264日齢)	約2万羽(230日齢)	約4万羽(552日齢)
通報時の死亡状況	あひる:隔離舎右側の扉2か所で計6羽死亡	列中央付近下段ケージで2羽死亡。その後、隣接ケージで3羽死亡	鶏舎全体に散在	11/21より死亡数の増加	鶏舎の最北側隣の一面で9羽がまわって死亡。周囲に暗転傾向の鶏を確認。	下から3段目の鶏舎入口から2~10ケージ目と、背中合わせの隣接する列のケージの範囲で、死亡及び衰弱した鶏の増加	鶏舎中央の通路の中央より入口側のエリアにかたまると死亡。
発生日前日までの死亡羽数の推移(発生鶏舎)	あひる:R4年11月9日に鶏重積により1羽死亡。それ以前の死亡はR4年9月24日の1羽以外なし。	隣接するケージで死亡が確認されたため通報	(1~2)⇒20⇒40⇒200⇒1000	(2~32)⇒55⇒125⇒157	0⇒1⇒9	(2.7羽/日)1羽⇒0羽⇒2羽⇒4羽⇒9羽⇒40羽	(10~20羽)⇒19⇒22⇒14⇒22⇒39
当該事例検出の契機(通報/検査)	通報	通報	通報	通報	通報	通報	通報
当該事例から3km以内の発生事例(発生日、距離)(当該事例発生日までの事例)	無	無	無	無	無	無	無
周辺農場検査(発生状況確認検査・清浄性確認検査)、疫学関連家きん飼養農場解除検査、例外協議検査等の採材日	-	-	-	R4年11月29日発生状況検査 R4年12月11日清浄性確認検査	-	-	-
当該事例病歴前21日以内の簡易実施日(全鶏舎(全)か病歴鶏舎のみ(単)かの別)	-	-	-	-	-	-	-
当該事例通報時の簡易検査結果	死亡あひる6/6、生あひる2/2	死鶏5/5、生鶏1/2	死鶏10/11、生鶏0/2	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏8/9、生鶏2/2	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏6/11、生鶏0/2
当該事例通報時のPCR検査結果	死亡あひる6/6、生あひる2/2	死鶏5/5	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏8/9、生鶏2/2	死鶏11/11、生鶏2/2	死鶏10/11、生鶏2/2
強制排気(発生家きん舎)(開放鶏舎の場合、壁に設置された換気扇からの排気を含む)	無	無	無	有(片側の壁に排気ファン)	無	有	有(北側壁面上部及び鶏舎側面北側1/3程度にクーリングパッド)、南側壁面に排気ファンがあり、自動制御)
至近のため池等の水場からの距離	400m	2km	約140m	約100m	約2km	池が農場に隣接	約10m
周辺状況	・周囲は山林 ・農場から1.2kmのため池でカモ類	・周囲は田畑、付近には川 ・周囲に池が複数 ・農場から2kmの池にカモ類	・山地と平地の境界部に位置し、周囲は森林や水田 ・周囲に複数のため池 ・農場から1kmのため池にオオハクチョウ、カモ類	・周囲には田畑が存在し、休耕田が隣接 ・周囲の川にカルガモ、コガモを確認	・森林及び住宅街や教育施設に隣接 ・農場から約2km以内に位置するため池及び河川にカモ類を確認。河川にカモ類を確認。	・池が隣接。周辺には稲刈り後の水田や草地が存在。 ・隣接する池や周辺の池にカモ類を確認。	・海岸から約3km内陸にあり、農場周囲はキャベツを主とする畑地 ・周辺には複数の農業用貯水槽や小河川が存在。
疫学情報							
生体の直近の導入日・頻度等	-	60日齢程度を毎月3,000羽程度導入。直近の導入はR4年10月10日	直近の導入はR4年10月11日	直近はR4年9月27日	直近の導入はR4年11月25日、26日	直近はR4年11月17日	直近はR4年11月18日
生体の直近の出荷日・頻度等(捕鳥・輸送)	-	出荷日齢:約630日齢 直近の出荷は、発生の1か月以上前(R4年10月5日)	出荷先:系列食鳥処理場 捕鳥・輸送・外注 約50~53日齢で出荷(オールイン・オールアウト)	出荷は契約会社と農場主で実施 直近の出荷はR4年11月17日(中抜き出荷)	農場の直売所(自社処理場で従業員と殺:R4年11月25日) 需要が高まる時期には、産鶏を木下食鶏へ販売	産鶏の捕鳥はすべて外注。約720日齢で産鶏業者に出荷。 直近の出荷はR4年11月4日	出荷先:産鶏処理場 捕鳥・輸送・外注 出荷日齢:約600日齢 直近の出荷はR4年11月1日
種卵の直近の導入日・頻度等	-	-	-	-	-	-	-
食用卵・種卵の直近の出荷日・頻度等	-	自家販売、取引先にほぼ毎日出荷	-	-	直近の出荷はR4年11月28日	毎日系列のGPセンターに出荷	出荷:コンベアにより農場併設のGPセンターに毎日運搬
集卵バーコンベア出口のシャッターの有無、ある場合に手動又は自動、隙間の有無、家きん舎外バーコンベア上のカバーの有無等	-	無	-	-	-	シャッター無	コンベア出口のシャッターは、ある鶏舎とない鶏舎あり(発生鶏舎にはあり) 鶏舎外のコンベアに金網が設置されていたが一部割れあり
飼料業者(輸送)の直近の立入日・頻度等	白菜、キャベツ、ザーフードベレット、バランスアップ、牡蠣殻を搬入しており、搬入業者は月単位で変わるとのこと。	隔日で搬入	週2~3回搬入	搬入頻度は週3回	毎日搬入	搬入は週6日、直近はR4年11月29日	5回/週
敷料調達(輸送)頻度	-	-	もみがらを近隣農家から譲り受け使用。おおむね導入時に必要な量を鶏舎内に搬入するが、追加投入する場合もある。	入糞前に全量を購入し鶏舎に搬入。	購入した敷料を倉庫に保管し、入糞前に鶏舎に搬入 R4年11月4日に敷料納入	-	-
鶏糞・堆肥の直近の搬出日・頻度	隔離舎で出た糞は、餌の食べ残しの飼料とともにビニール袋に入れて回収したのち、敷地内で焼却。	月に数回重機で搬出し、自場の堆肥置場に運搬し、コンポストで処理。	オールアウト後、除糞し、共同堆肥処理施設へ運搬	オールアウト後に除糞し、契約会社が引き取り。 直近の搬出はR4年9月	オールアウト後に、鶏舎に堆積した鶏糞の上層部のみ除去。	除糞ベルトによって3日に1回堆肥舎へ搬出。一次発酵を行った後、発酵堆肥舎に運ばれ二次発酵を行う。 搬出先は近隣耕種農家および放牧場(牧草地への散布)。直近の搬出日はR4年11月19日。主な搬出先はR4年5~11月に約40t/月。	除糞ベルトにより鶏舎排気口側の床下に排出され堆積。 鶏舎から搬出した翌日に自社堆肥処理場へ搬出し完熟堆肥化
除糞ベルト出口、ピット等のシャッター、蓋等の有無、隙間の有無等	無	無	-	鶏舎排水口は、オールアウト後の水消毒時以外は閉鎖	-	有(除糞ベルト稼働時以外は鶏舎内の糞排出口をパネルで覆う)	集糞ベルトに蓋はなし(除糞ベルトは糞床下に堆積し、鶏舎外には出ない)
死亡鶏出荷、処理の頻度等	施設内の動物病院に持ち込まれ、その近くの焼却場で処分	鶏糞に混ぜて堆肥として搬出	袋に入れ、鶏舎裏手の空き地に運搬し、古い堆肥をかぶせて発酵消毒	ポリバケツへ入れて保管、ある程度集まったら農場に隣接する自宅庭で焼却	毎日の健康観察時に回収し、農場入口付近の蓋つきの容器に保管しており、週に2回化製業者が回収。直近の出荷はR4年11月28日	毎朝の見回り時に鶏舎ごとにバケツに集め鶏舎内に一時保管し、夕方に全鶏舎のバケツを回収して堆肥化処理。	毎朝の飼養管理時に回収し、死鶏粉砕装置内で保管。2日分をまとめて処理し、都度自社堆肥処理場へ搬出して加熱処理後に堆肥化
作業従事者	施設には、飼養管理の従業員110名おり、あひるの管理は職員10名がシフト制で対応	4名	2名	1名	28名	従業員7名(6名が鶏舎作業に従事、1名は堆肥作業のみ。7名のうち正職員は3名、作業委託1名、パート3名。)	11名
外国人従業員 ○:あり(鶏舎に入る) △:あり(鶏舎に入らない) ×:農場に入らない 海外渡航歴	なし	なし	なし	なし	なし	なし	○ 少なくとも過去21日間航歴なし
管理獣医師	あり	3ヶ月に1回程度、環境検査(主にサルモネラの検査)のため、管理獣医師が訪問。	通常の飼養管理について指導を受けているが、定期的に訪問する獣医師はいない	管理獣医師あり。訪問は年に1度程度。前回の訪問はR4年11月	管理獣医師なし	管理獣医師あり。年に数回立入があるが、過去21日間の立入り履歴はなし。検査等の必要な時は別に依頼。	管理獣医師あり。鶏舎内に立ち入ることはほぼなく、直近1か月以内往來なし。
動物用医薬品	なし	-	直近の投薬はなし	管理獣医師処方に基づく。 直近はR4年11月25日アンピシリン投与	10/30 MG/MS点眼 11/7 ND飲水	直近の投薬はなし	直近の投薬はなし
その他衛生管理区域への立入り状況	なし	-	ガス業者(R4年10月20日)	ガス業者R4年10月31日	なし	直近の立入り履歴無し	R4年11月21、22日に工事関係業者立入
その他特記事項	-	-	-	-	-	-	-

疫学情報まとめ

	61例目	66例目	69例目	80例目
農場情報				
農場所在都道府県	滋賀県	滋賀県	宮城県	岩手県
農場所在市町村	大津市	大津市	角田市	金ケ崎町
発生日(疑似患者判定日)	R5年1月19日	R5年1月26日	R5年1月28日	R5年3月14日
用途	採卵鶏	だちよう(エミュー、趣味で飼養)	肉用あひる(あいがも)	採卵用育雛
飼養形態	ケージ飼	平飼	平飼	ケージ飼
家さん舎数	2鶏舎(開放)	1棟(開放・屋外)	12棟(開放)	2棟(ウインドウレス、計4鶏舎(内部で2区画に分割)、1棟空舎)
家さん舎・ケージ構造(発生鶏舎)	モニター有、屋根裏無 低床式 Aライン型2段ケージ4列(8レーン)、 通路4本、2羽/ケージ	鳥舎とパドックで構成	モニター無、屋根裏無	モニター有、屋根裏有 低床式 各鶏舎直立5段ケージ4列(2山)、通路3本 約15羽/ケージ
発生鶏舎以外での殺処分検査陽性	-	-	○	-
飼養羽数	約0.4万羽	エミュー6羽(疫学関連農場で採卵鶏約40羽)	約1.0万羽	約8.4万羽
うち発生鶏舎(通報時年齢)	約0.4万羽(547日齢以上)	同上(2~6歳)	約1,800羽(8日齢及び22日齢)	約8.4万羽(108日齢)
通報時の死亡状況	鶏舎左側手前付近で5羽がまとまって死亡	通常死亡がないところ、通報の2日前に1羽死亡、通報当日にも小屋付近にて1羽死亡	死亡羽数の増加	当初は死亡は点在していたが、その後、同一ケージ内で死亡が確認され、発生ケージ周囲の複数ケージで数羽の死亡鶏を確認
発生日前までの死亡羽数の推移(発生鶏舎)	記録簿なし 不明⇒不明⇒不明⇒3⇒11	0⇒0⇒1⇒0⇒1	(多くて10羽程度)⇒114羽	(1.2)⇒8⇒13⇒11⇒17⇒15⇒19⇒13
当該事例検出の契機(通報/検査)	通報	通報	通報	当初コクシジウム症を疑っていたが、搬出が近づきHPAIを確実に否定しておこうと考え通報
当該事例から3km以内の発生事例(発生日、距離)(当該事例発生日までの事例)	無	61例目(R5年1月19日、約1.2 km)	無	無
周辺農場検査(発生状況確認検査・清浄性確認検査)、疫学関連家さん飼養農場解除検査、例外協議検査等の採材日	-	-	R5年1月28日(69例目発生農場確認検査、例外協議検査) R5年2月9日(69例目清浄性確認検査)	-
当該事例病鑑前21日以内の簡易実施日(全鶏舎(全)か病鑑鶏舎のみ(単)かの別)	-	-	-	-
当該事例通報時の簡易検査結果	死鶏9/11、生鶏0/2	死亡エミュー1/1	8日齢:死亡あひる11/11、生あひる2/2 22日齢:死亡あひる8/11、生あひる0/2	死鶏10/11、生鶏0/2
当該事例通報時のPCR検査結果	死鶏11/11	1/1	8日齢:死亡あひる11/11、生あひる2/2 22日齢:死亡あひる8/11、生あひる2/2	死鶏11/11、生鶏0/2
強制排気(発生家さん舎)(開放鶏舎の場合、壁に設置された換気扇からの排気を含む)	無	無	無	有
至近のため池等の水場からの距離	約300m	-	約200m	約50m
周辺状況	周囲には竹林や田畑、住宅街	田畑や林等に囲まれている	・平野部に位置し、周囲は水田、雑木林や雑草地に囲まれている。 ・農場周囲に複数のため池が存在。 ・農場から約240mの川でカモ類、約2.6kmのため池でオオハクチョウ、カモ類を確認。	山地と平地の境界部に位置し、周囲を森林に囲まれている他、周辺には水田や牧草地が存在。 農場の南に河川、北に小川あり
疫学情報				
生体の直近の導入日・頻度等	直近の導入は1年以上前	4年ほど前に導入	直近の導入はR5年1月26日	43~53日齢雛を導入 直近の導入はR5年1月10日
生体の直近の出荷日・頻度等(捕鳥・輸送)	直近の出荷は1年以上前	-	農場敷地内の食鳥処理場へ出荷(5日/週)	120日齢で系列農場に出荷 輸送は自社トラック
種卵の直近の導入日・頻度等	-	-	-	-
食用卵・種卵の直近の出荷日・頻度等	出荷先:敷地内GPセンターで包装し、スーパー及び飲食店等に出荷 輸送:本人 ほぼ毎日出荷 (※移動制限以降R5年1月18日~R5年2月17日は出荷停止)	-	-	-
集卵バーコンベア出口のシャッターの有無、ある場合に手動又は自動、除間の有無、家さん舎外バーコンベア上のカバーの有無等	・発生鶏舎は1ラインのみ自動集卵。 稼働時以外は搬出口に板を設置 ・他は手作業で集卵し、一輪車で運搬	-	-	-
飼料業者(輸送)の直近の立入り・頻度等	複数の飼料業者がそれぞれ搬入。 直近の搬入はR5年1月18日	キャベツの屑やくず米は無償で入手。 トウモロコシ飼料は飼料会社から購入。月に1度程度搬入	タンク:週1~2回 紙袋:週1~2回 ※別会社	週2回程度搬入 直近の搬入はR5年3月10日
敷料調達(輸送)頻度	-	精米所の横に置いてある樹殻をもらってきている。	もみがらは近隣の農家等から譲り受け、おが粉は近隣の木材業者から購入	-
鶏糞・堆肥の直近の搬出日・頻度	月に2、3回、列ごとに農場から約800m離れた堆肥場に運搬 直近の搬出はR4年12月20日	パドックに放置	肥育舎内の敷料は2回/週、重機で交換。除去した敷料は堆肥場に野積み。 育雛舎内の敷料は、舎内に堆積後、堆肥場に搬出。 堆肥場からは、果樹農家に譲渡。	2日に1回程度、鶏舎床下に設置された鶏糞ベルトにより鶏舎に隣接して駐車した鶏糞積載車の車両の荷台に積み込まれ、3km程度離れた系列施設に搬入し発酵処理
除糞ベルト出口、ピット等のシャッター、蓋等の有無、除間の有無等	(除糞ベルトなし。列単位で重機で回収)	-	なし	除糞ベルトピットに蓋、鶏舎出口には蓋があり、稼働時以外蓋が閉まっている
死亡鶏出荷、処理の頻度等	農場内の発酵処理機で処理するか、通路に放置。	パドックに埋葬	飼養管理時に回収し、死鳥保管庫で冷蔵保存し、業者が回収	毎日回収し、鶏舎奥にまとめて保管した後、畜つきボリバケツに入れ、一杯になり次第、社用車で系列農場に運搬し焼却炉で焼却。最後の運搬はR5年3月8日
作業従事者	2名	1名	14名(うち5名が家さん舎内作業を担当)	3名
外国人従業員 ○:あり(鶏舎に入る) △:あり(鶏舎に入らない) ×:農場に入らない 海外渡航歴	なし	なし	3人(ミヤンマー人研修生)	なし
管理獣医師	管理獣医師なし	管理獣医師なし	定期的な農場を訪問する獣医師はなし	定期的な立ち入りは行っておらず、直近はR4年のHPAIシーズン前
動物用医薬品	直近の投薬はなし	直近の投薬はなし	直近の投薬はなし	直近の投薬はなし
その他衛生管理区域への立入り状況	製品運搬者(R5年1月17日)	-	産廃業者(死亡アヒルの回収、食鳥処理後の血液の回収、R5年1月26日) プロパガス業者	給油業者(R5年3月8日) 水道検診(R5年3月1日)
その他特記事項	-	-	疑似患者確定の前日に、発生鶏舎に導入されたロットが、疫学関連家さんの可能性があるととして(R5年1月20日千葉県から導入、同農場から導入した鶏舎で発生、65例目)のため、	-